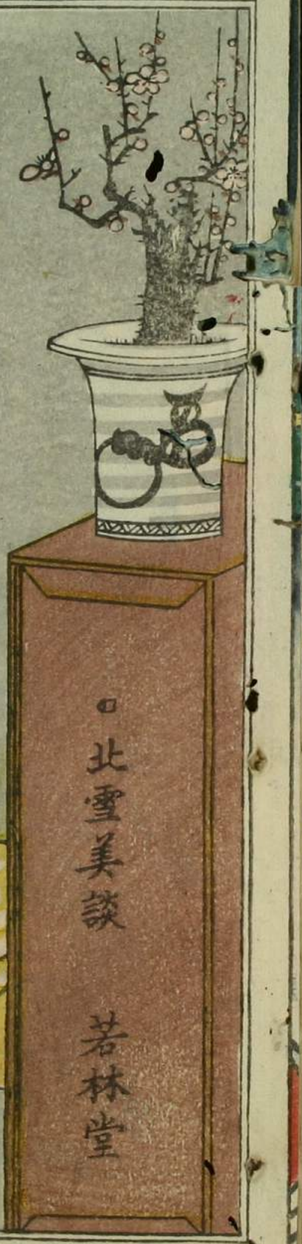
へ13
3031
5



時代加賀美

廿七集上帙

為永春水作

歌川國貞画

北雪美談　若林堂

時代鏡

二十七編の下

為永春水作

歌川國貞画

若林堂梓

北雪美談

時代鏡

廿七編下

林堂

廿八編下

若林文庫

廿八編上

國

貞

壺

小題曲盃國

奏

彩

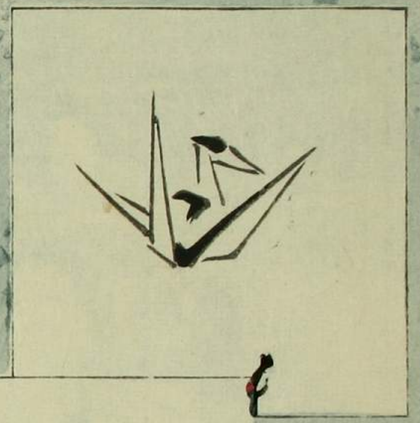
化

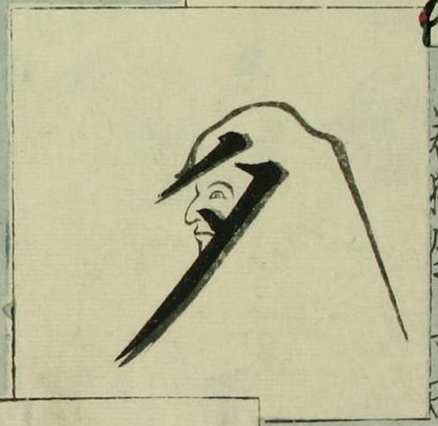
奏

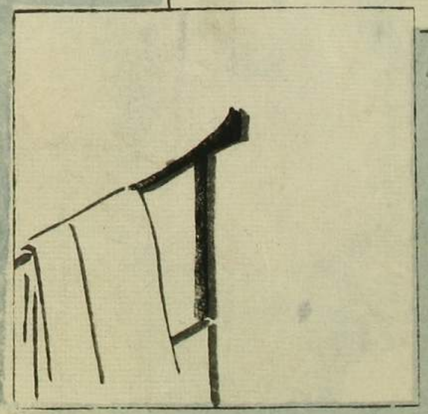
梓

時代鏡

廿八編下巻







為永作國貞画

若狭屋与市板

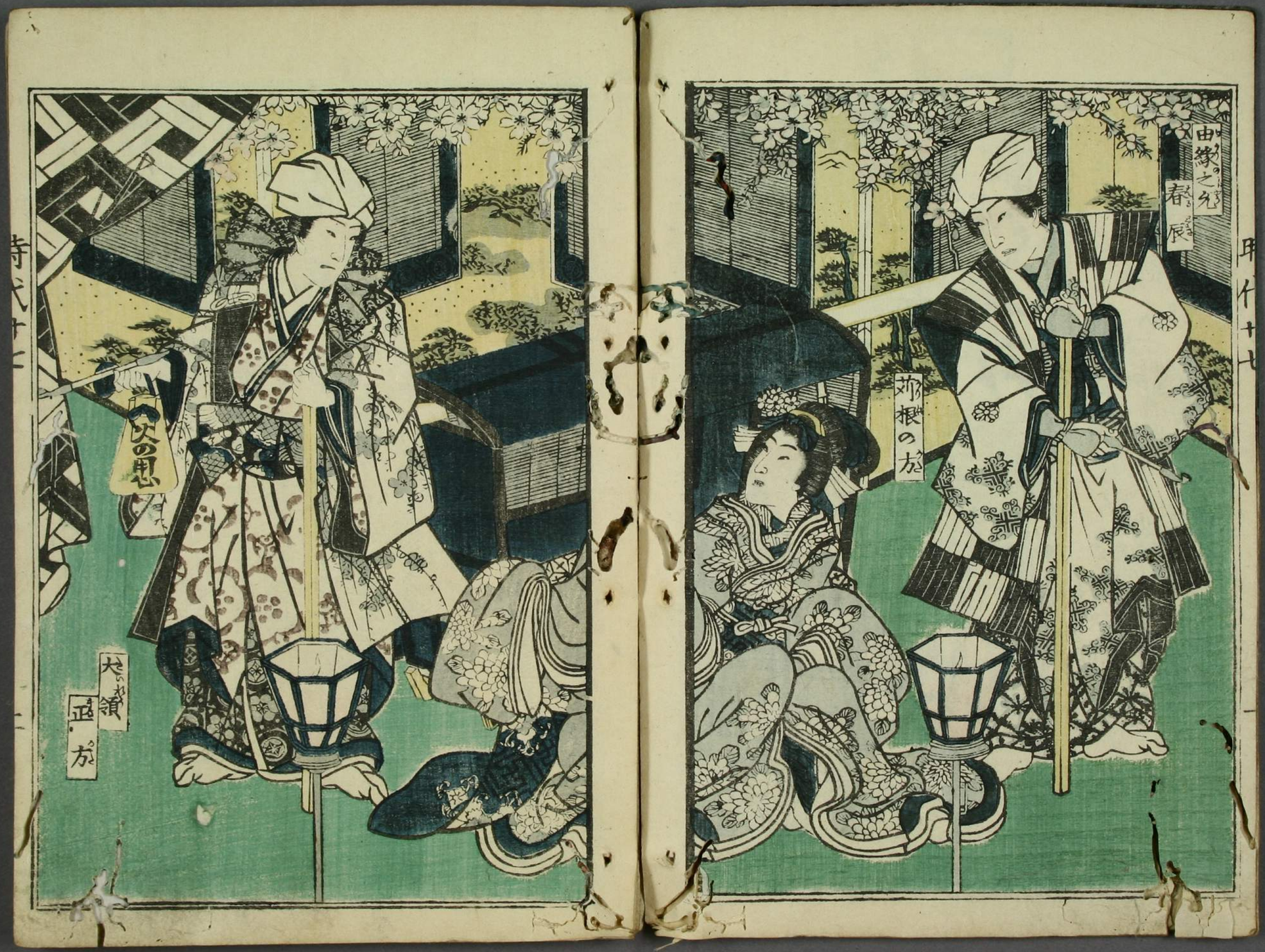
三魚戯墨

一

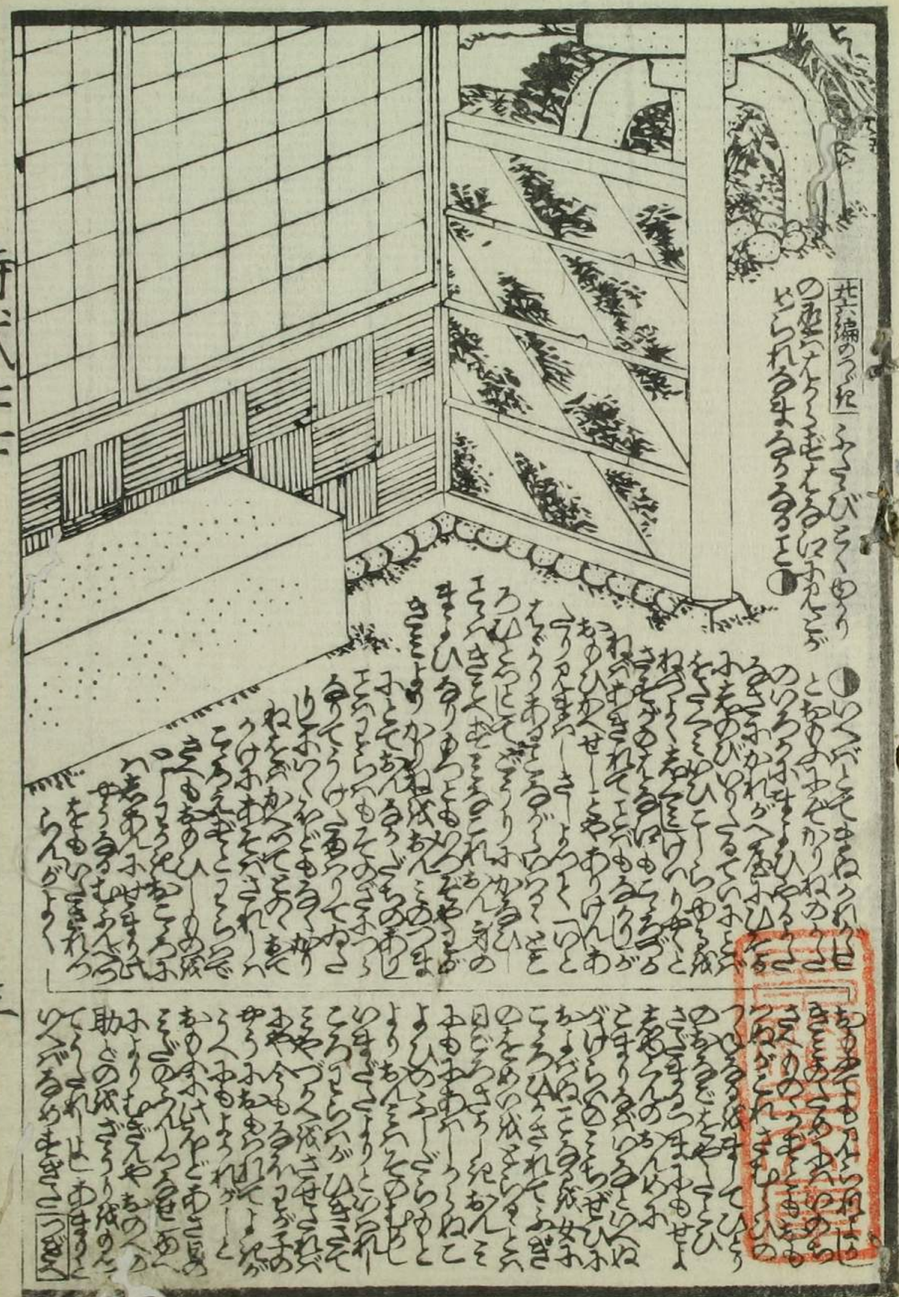
人生五十年。譬バ一日の戯場のあとしゞと実や母の胎内哉。生出る發端より命終るの大詰まで。大千世界の本舞臺に善悪邪正の兩花道表に忠孝の看板に出せど心の樂屋こゝのつゝ仕打に

一丁あつ
▲ 官人

時代十二



由縁之允
春辰
苅根の方
大の思
大領
正方



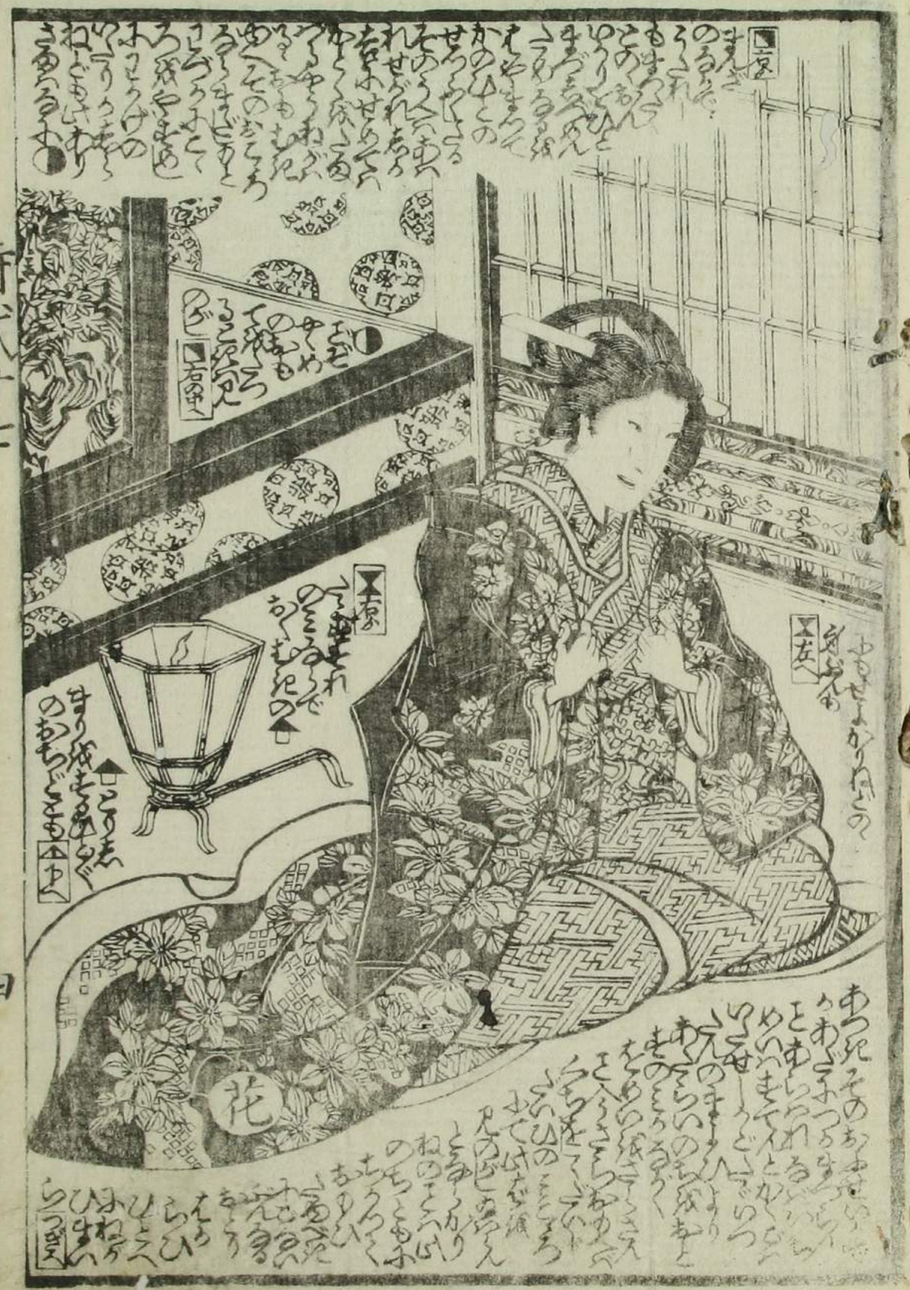
[illegible]

腹を見透されて謀るくと思ひの外又計らくの後悔あり或ハ手詰の金やくに身售の愁歎晦日の混膽四季折くの移更ハ綿入忽地單となる一足飛の早替り無分別なる道行あるとハ胸に嫉妬の燒酎火尓バせり出せ出世にハ大願成就と歡べど奢て次第に身上の廻舞臺になるとハ月日に幕のあらざる故由斷の大敵おし寄せく盆と暮との大立廻り借るとハの立役も返せとハ敵役と朝昏日夜にかつりやく眞に浮薄の人情と天道棧敷の眞中より常に上覽ましく一事も善に進む者にハ必ず餘慶を下しのべバ惡人爭う餘殃を遁れん嗚呼是戲場も教訓の捷徑开ゝまた史に演ずるゝ合巻物の本とハ名号つ

文久癸亥
初春發行

爲永春水誌

由


花

由

花

花

春水作
國貞画

風流画半切

越前奉書紙 ○稲むしろ御半切
伊豫奉書紙 ○かん彩し御半切

御進物第入巻結は好次第寄の藤に仕立ゆ事に其上は間ふ和歌御用向御付は根本希は

上製 御文箱 [illegible] 新り入ぎり 志みぐ

若紫ゆ の里の面ざし
これは十八むきと申ふて十六むきにも御成りて御極切回ろ紙を極之
[illegible]

御の包 極ざいし紙 [illegible] 新形志みぐ

目録包 水引のり入のりより下ゆるにあひは [illegible]

新工 風智恵かるた
此仕ゆうはまづたしまるまゝに
あるづくしの魚づくしの源氏名の
又花づくしの何にてもはきらめる
され常のかるたのごとくとりて
その札の文字にて何づくしの内
なんの字をとらしらへるでたる
人のちなり神奥はなくさみ
[illegible]

當年新板 壽こ六郎志みぐ

東海紀繪 千代紙るゐ

御年玉御進物第入たとう入
御好次第寄入下ゆ事に其上は

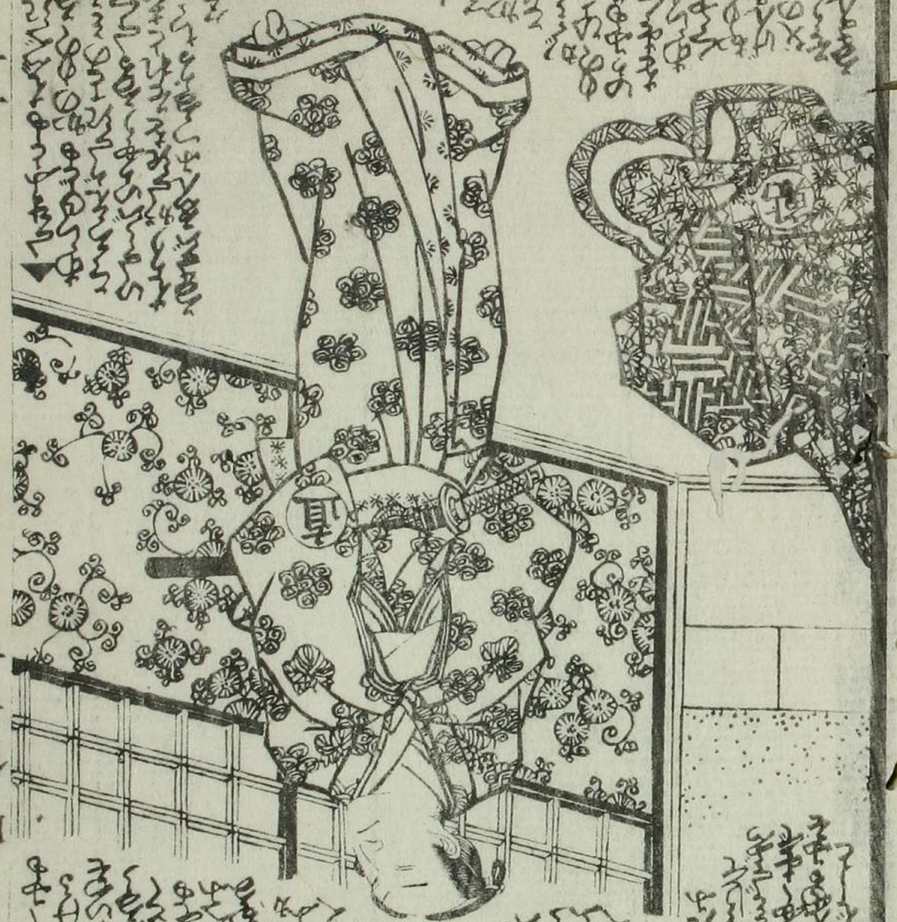
若林堂板

右
左

直
若

直
鮎
數

若

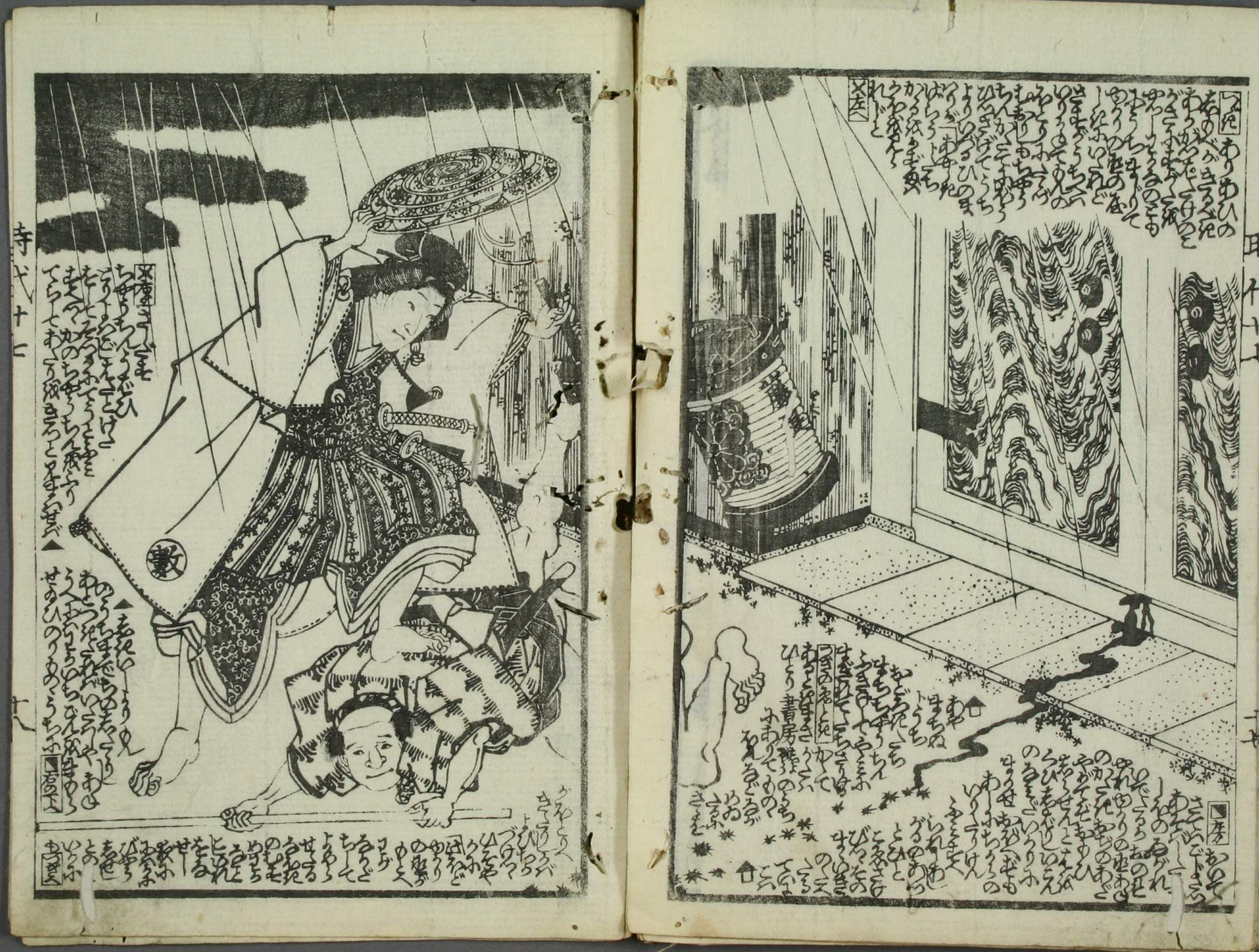


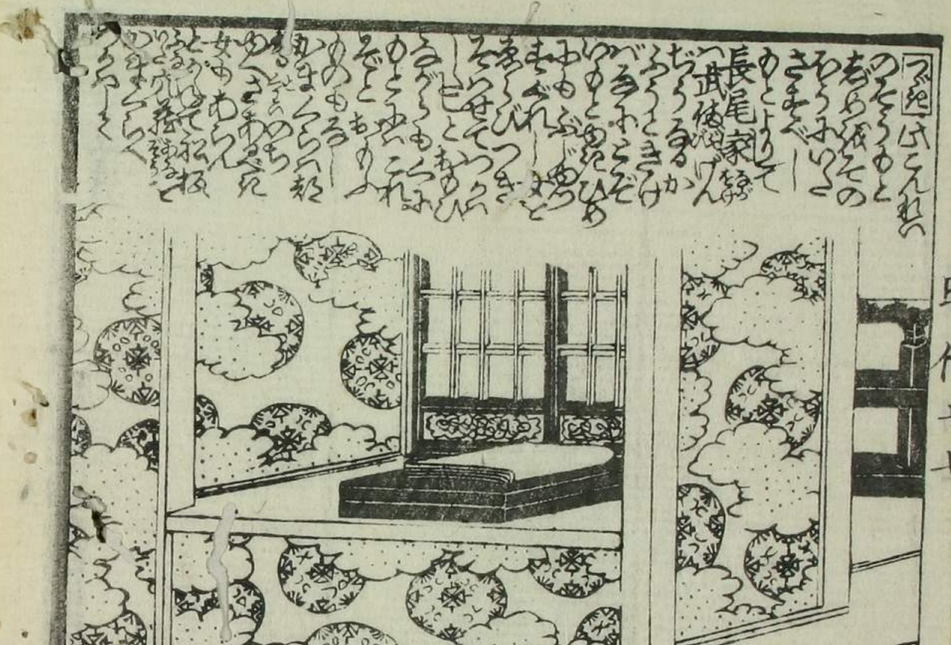
若
鮎

直
敷

若

由





春水作國貞画

〔つゞき〕こゝろでハそれハいけへ
よりあるかハまこんどのこと茂
さういふ事ハよくこゝろつて
もうおれしも京に
うのやうにもならで
わらつてるそれそのうへに
このきのがきのよりそれに
おりつくやうて[illegible]せられる
こともわれバ[illegible]
きみがせのいと[illegible]
こゝにぬうりかある[illegible]
けれ

胡鮮牛肉丸 大包金一朱 中包金一朱 小包百銅
第一ひかの法禰ひ
おんせの法方ます
妙薬なれバごよ
しやの人あまま用
ひそう
下谷三味せん堀 深崎氏製

どれ
さあれ
もこて
ろハ
つけのみト
りのやうなりける
[illegible]

○ひなぎか
ゆかりが
かわいへ
そりと又
いわるゝ
ことを
そとの次の
編を
又さ
まちん
作

浄書 箕田青洲

稗史ハ巧なるものなれど、大槩十に七八までハ首巻に巧を
措る條の、後冊にいたりて[illegible]あらんと見功者なるハ推し
はかるん。然るに深く慮り、東西にその意表に出るに、めづらしく
看官忽地膝を敲き、其處に驚嘆なさしむるに、賞て新
奇妙案といふ㕝ハ、予が如き拙作の企及ぶ所にあらねど、
本編既にその場にいたりて、那岳ケ嶽兄妹が身の上をも
説出して、まず具なるに至らざるに、紙員尽て筆を閣ぬ。
這ハ何とかして結ぶにあらんと、作者が肺腑を戯れに探らせ
なるが、是も又夜長の伽のひとつにこそ。

癸亥早春

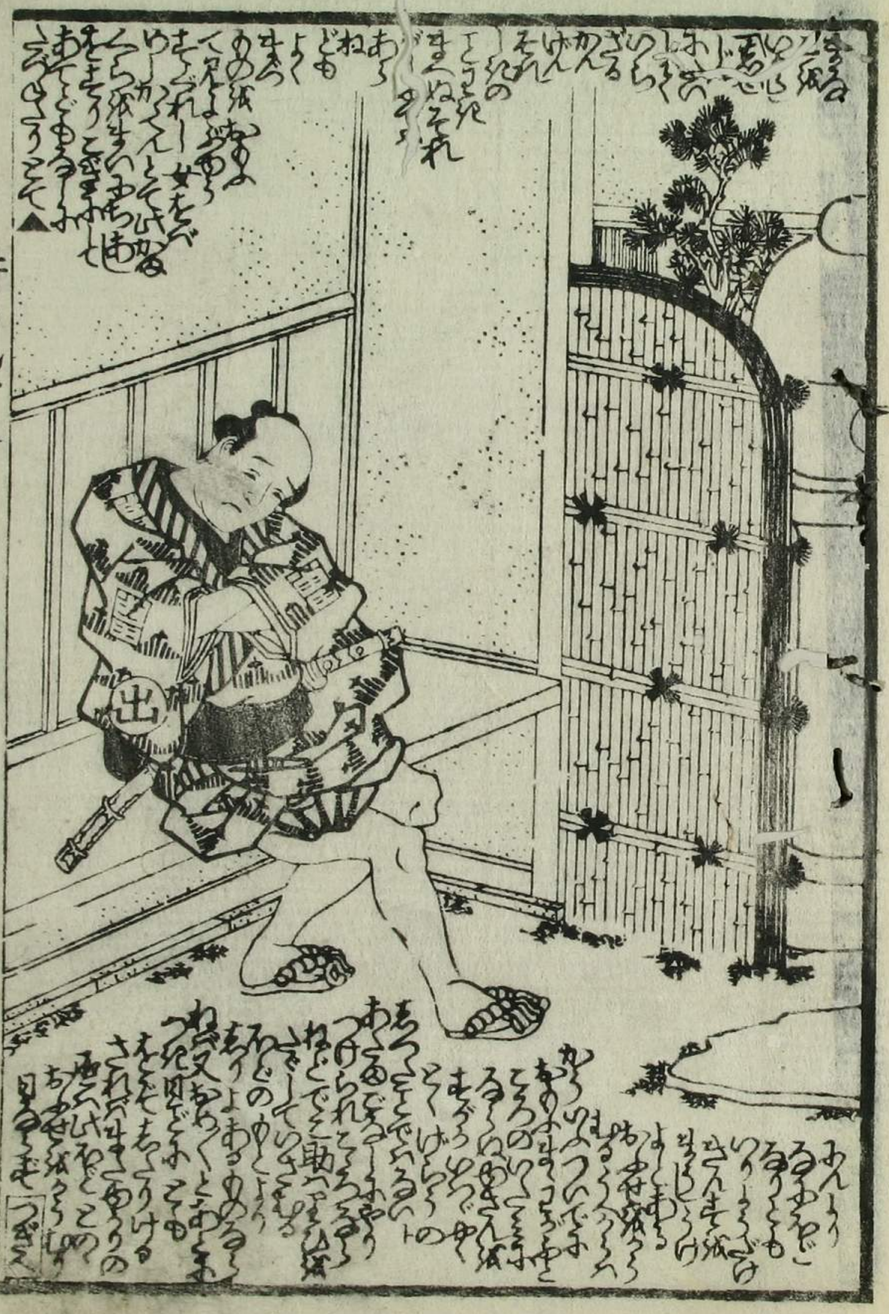
為永春水記

白山雪若友冬
時代十八
老女花江
公達狗喜代丸
梅園前の腹ハ生ぞ

老女笹尾
公達愛之助
新根方の腹に生ぜ
湯尾安波太郎
敦連

穴
出

穴


出

千部
常山執事

由

宍

羽

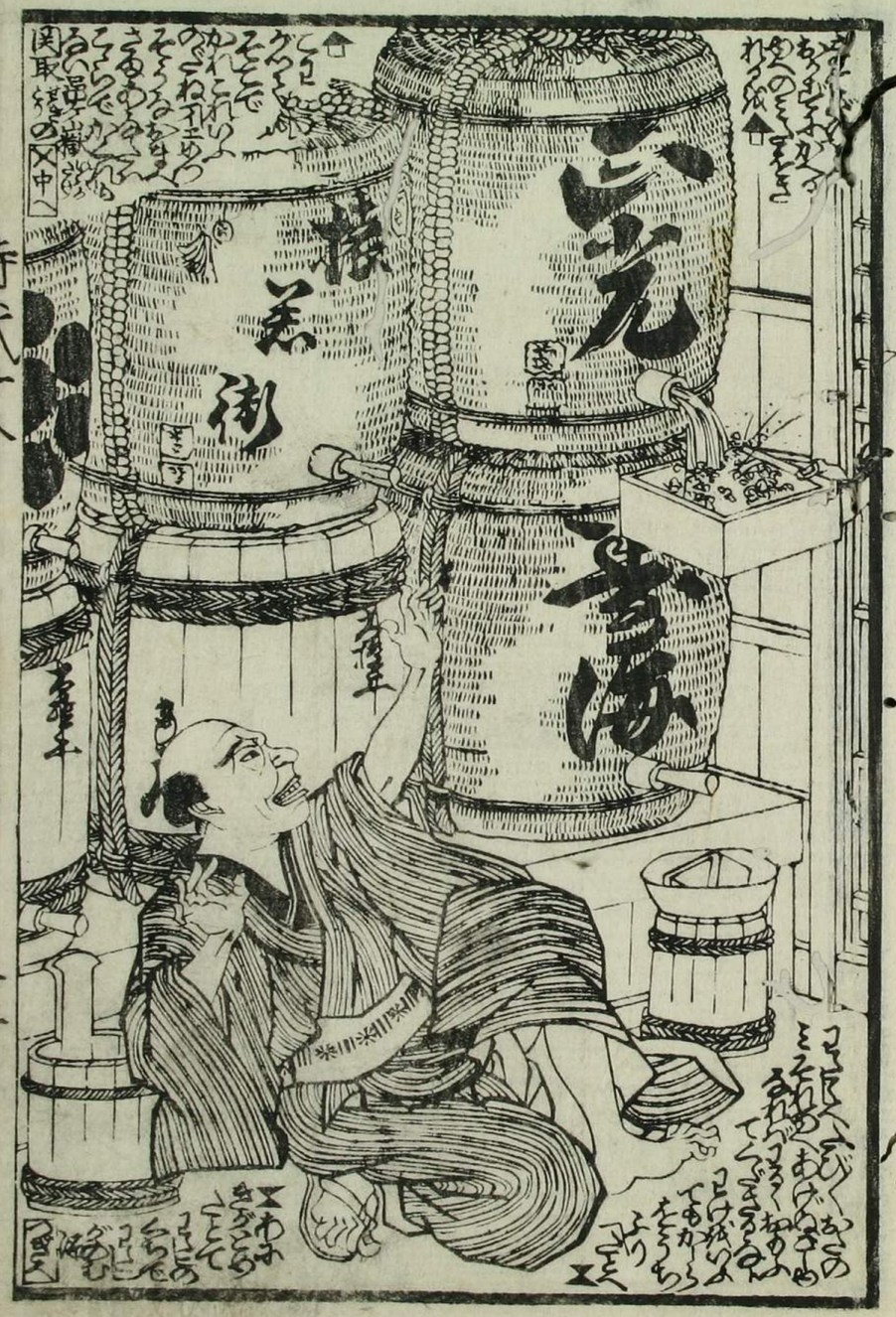
由

折

めし立場

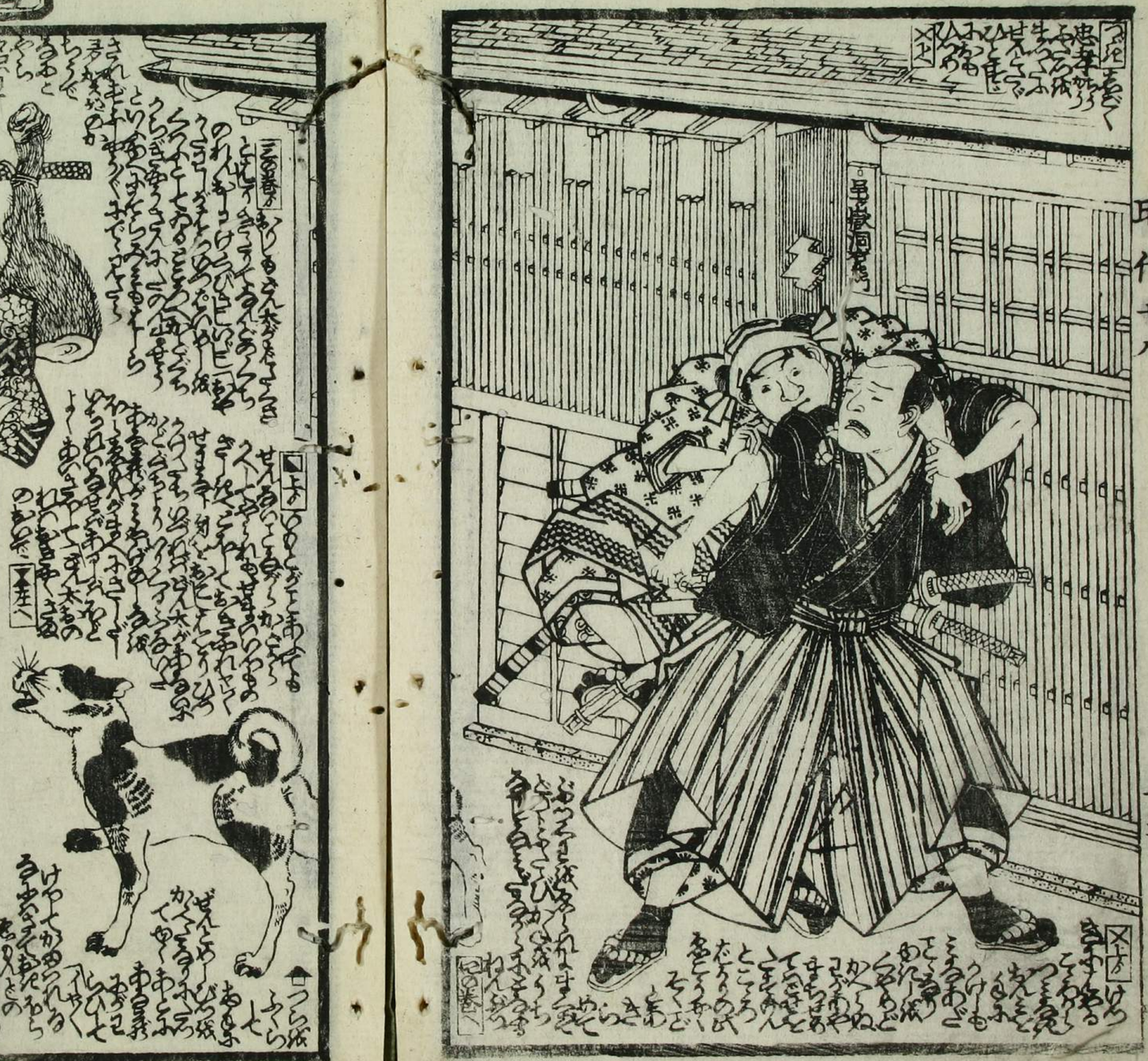
三

折



中へ
鈍
洞

上か
穴



洞
穴

真葛の灵
折

文久三癸亥年新刻目錄

北雪美談 時代加賀實 廿七編 廿八編 廿九編 爲永春水作 楳蝶樓國貞画

雜談雨夜質庫 六編 七編 爲永春水作 一陽齋豊國画 出板門人 國久画

一説一編讀切

庭訓武藏鐙 應賀作 六編 攝 國貞画

東園扇 しのん釘形

東都 若林堂 芝神明前 大坂 狹屋 千市 版元

爲永春水作

歌川國貞画

朝鮮牛肉丸 大包金二朱 中包金一朱 小包百銅

深崎氏製

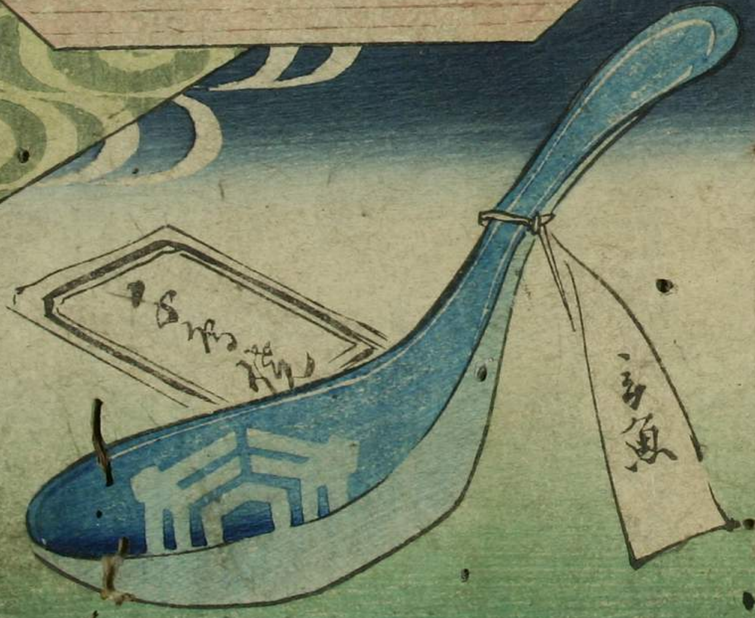
淨書 青洲

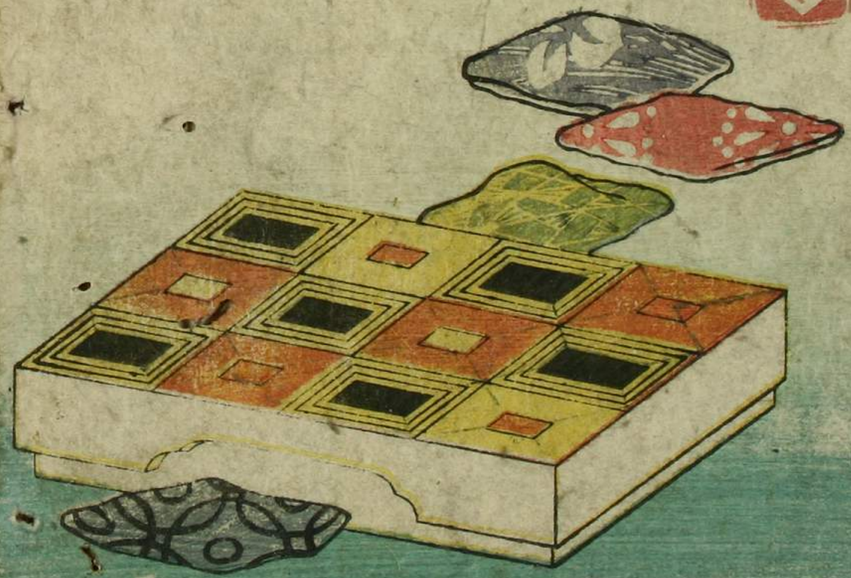
時代鏡

廿九編

春水作

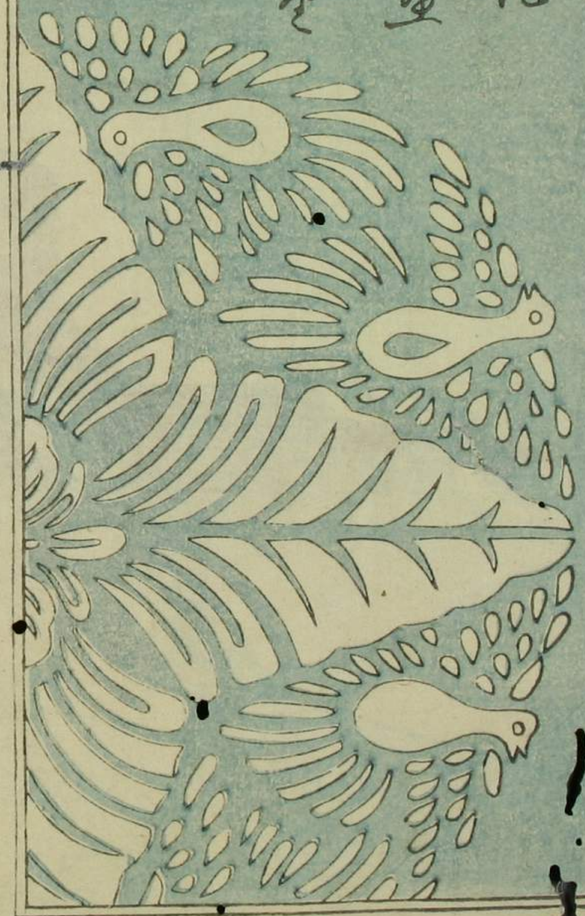
國貞画





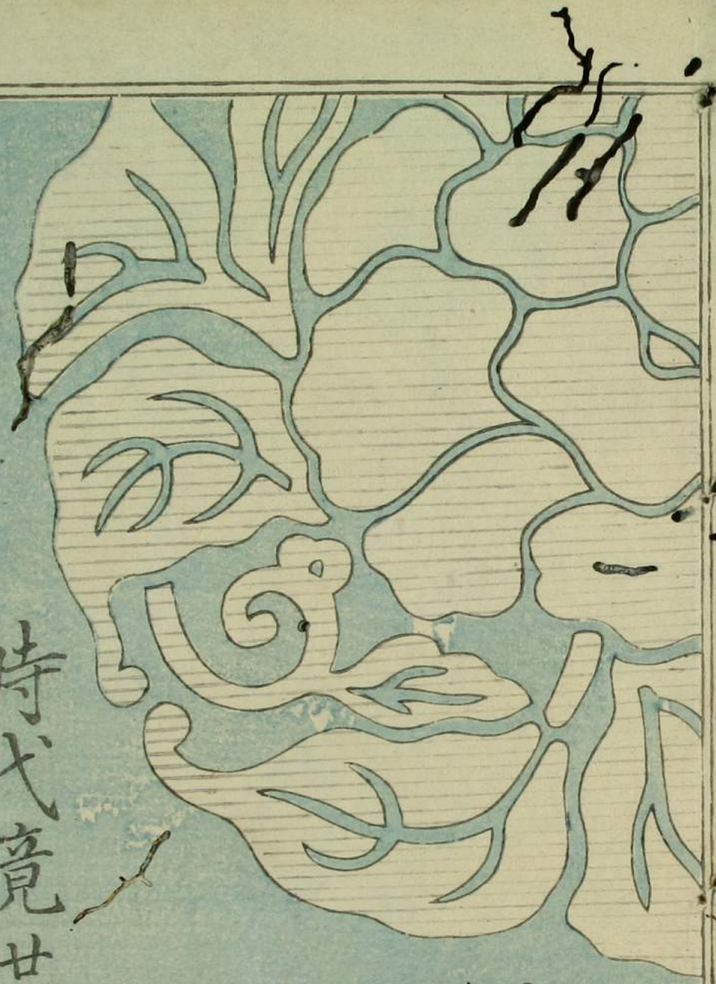
時代加々見廿九編下

春秋化
國貞画
若林書
莊板



時代鏡 廿九編上

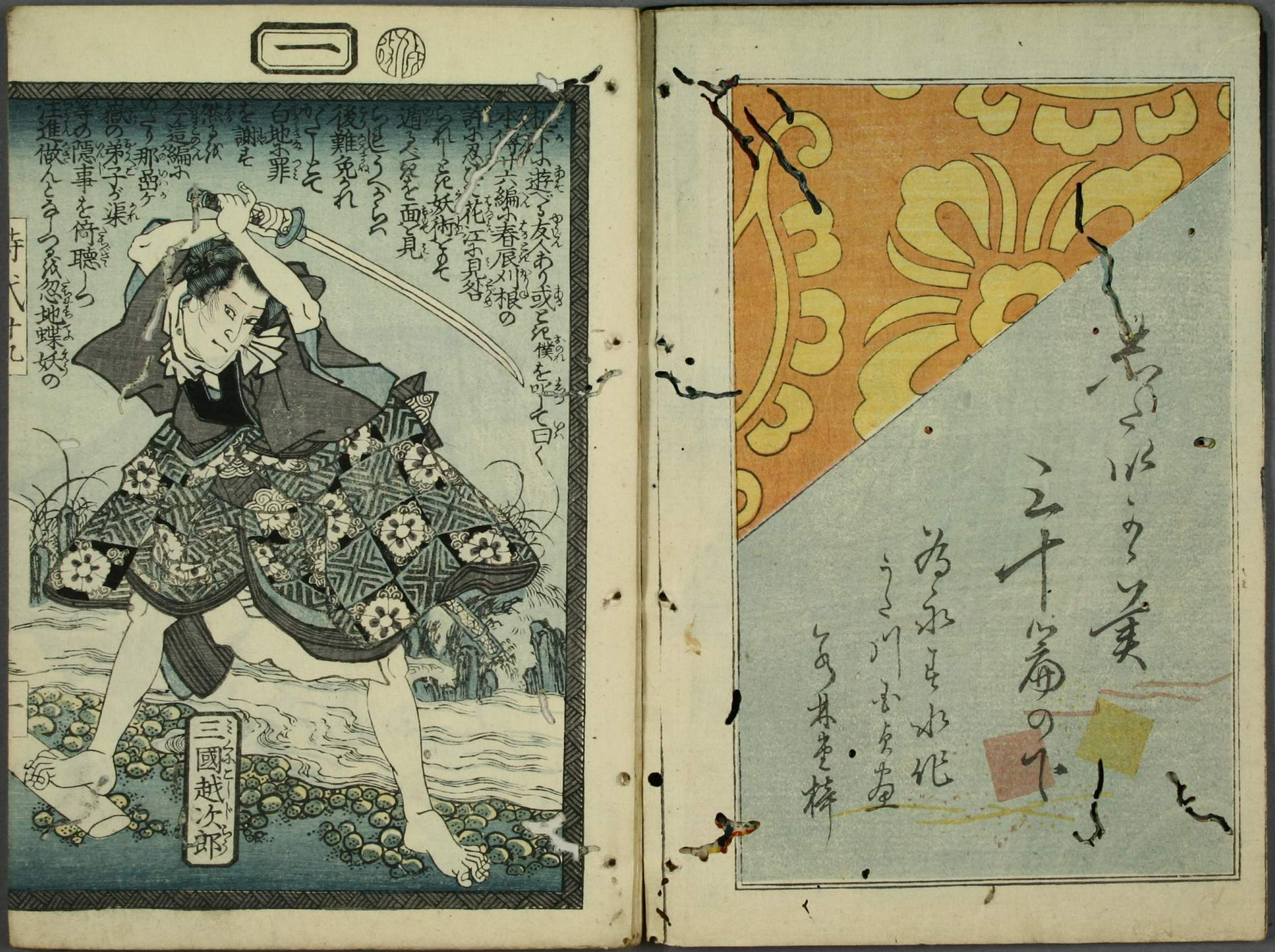
為永
春水作
歌川
國貞画
若林
文庫



外題曲互國畫
廿九編下

時代鏡
廿九編上

美談時代鏡
作題曲互國志
三十編下
三十編上
春水作
國貞画



三國越次郎

時代十九

術とのそそが命とが断に賢べり有右奇術の
わるなしがなぞ花江が命をも立刻に断
こりけん訝かしさしこと難ぎる後予ハ今や
所ゝ此首をうち掉り干ゝ二を
のこ知りてそのことを知らざる評る
ハ基妖術ハ左道にして譬ば
年径る野干なんどの愚民を蟲
魅がごとし尓ハ件の弟子ハ師
匠の悪事を訴えて自が栄利
をもとめんとする恁る小人なる
後のそかの妖蝶の形に駭
きたち絶する事も
わしんが帰徳そな
る花江において
[illegible]術に
命を失ふ

歌妓
眞葛

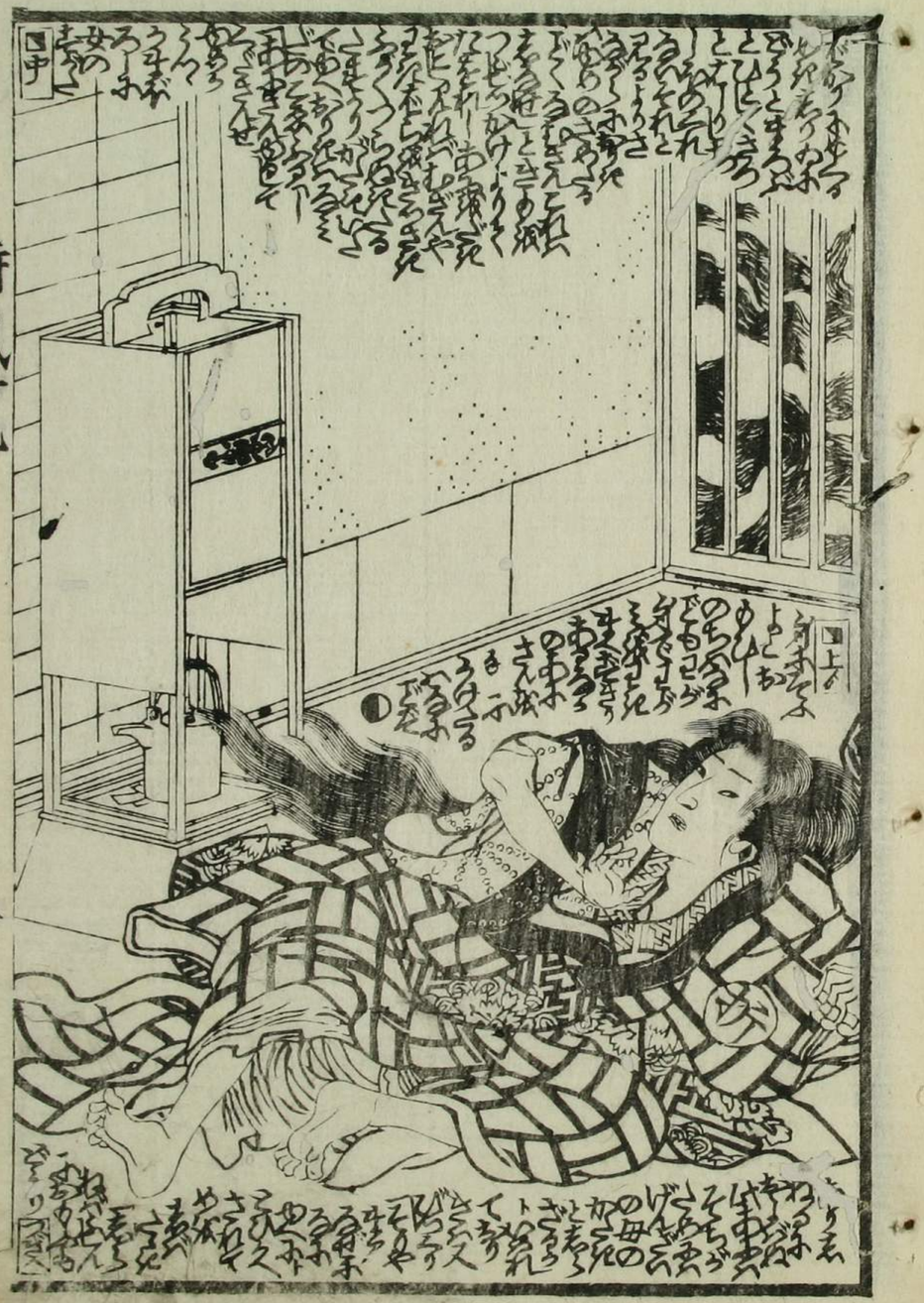
時代十九

二

文久三益春吉良
右爲永春水記

眞顔に
なりく
論ぜ
と想
ひしは是
居眠の中に
見たりし夢
なるを其俗写
して余紙を塞ぐ

荒地の
浪客
三國
山平



越
真

真
山

眞

山

越

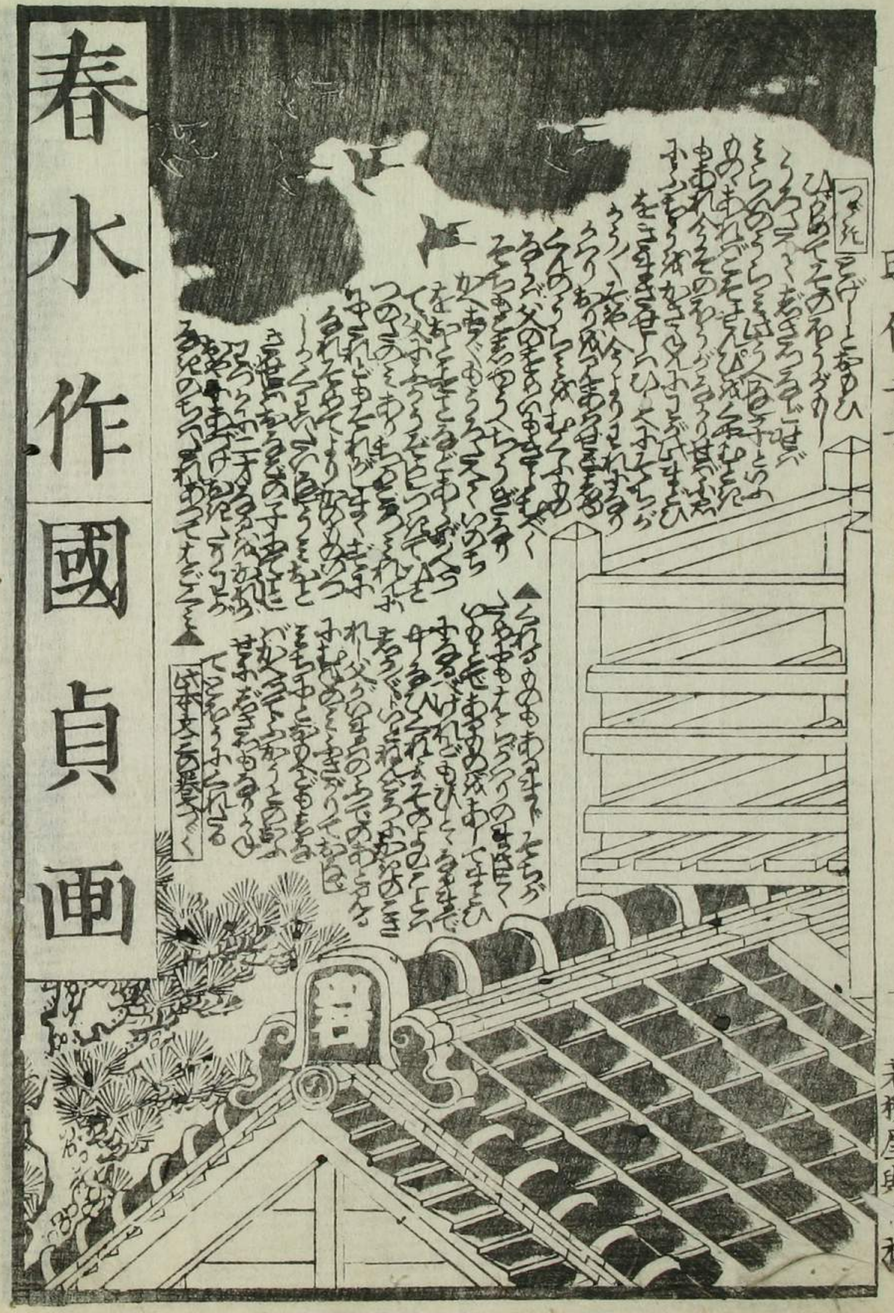
洞

由
折

明

由
折

春水作國貞画



若狭屋與市板

虞
花

花

七
蒸

清泊宿

いならきや

[illegible]

童

[illegible]

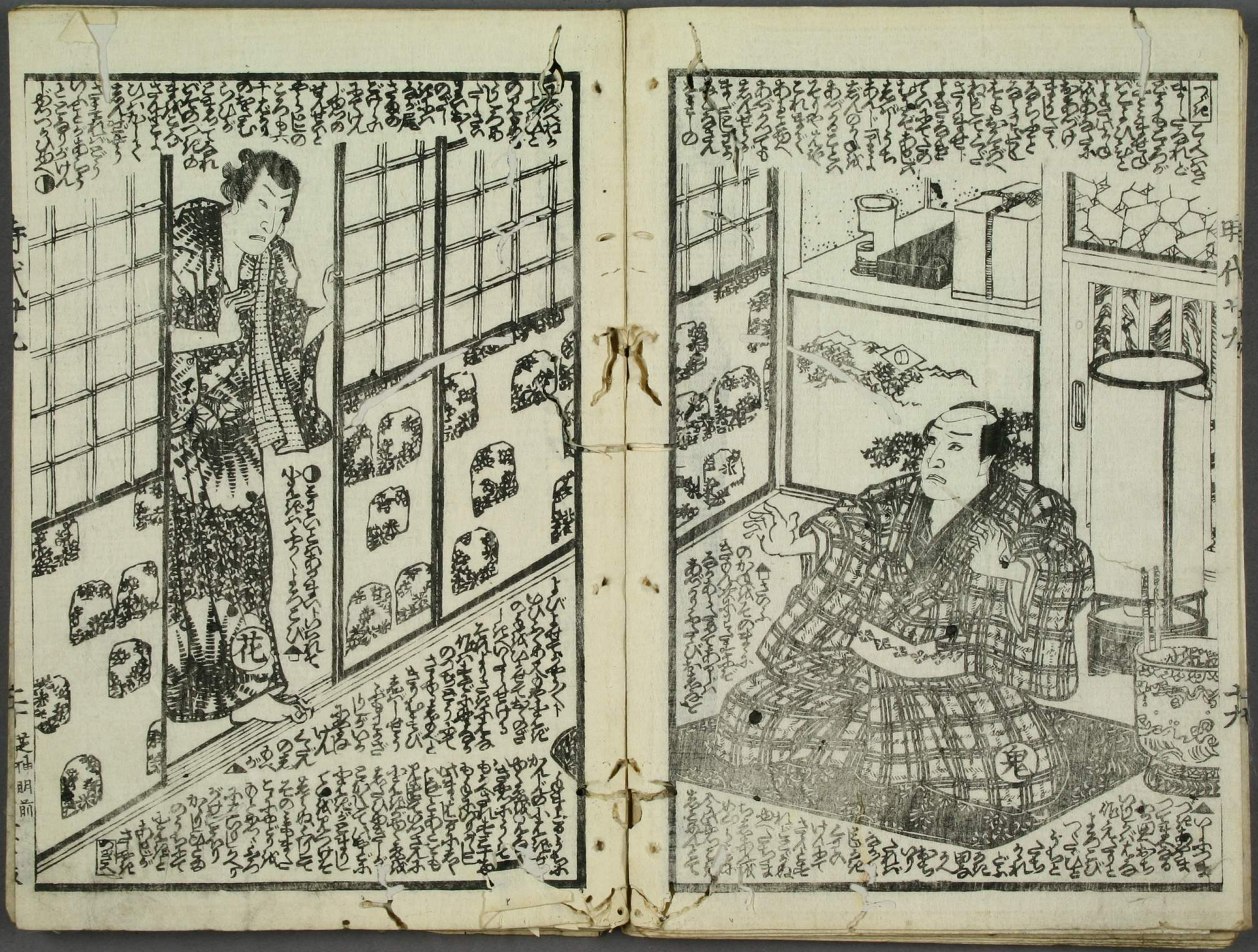
関東講

浪花講

[illegible]

秋

鬼
花



花
鬼

朝鮮牛肉丸
大包金一朱
中包金二朱
小包百銅
深崎氏製

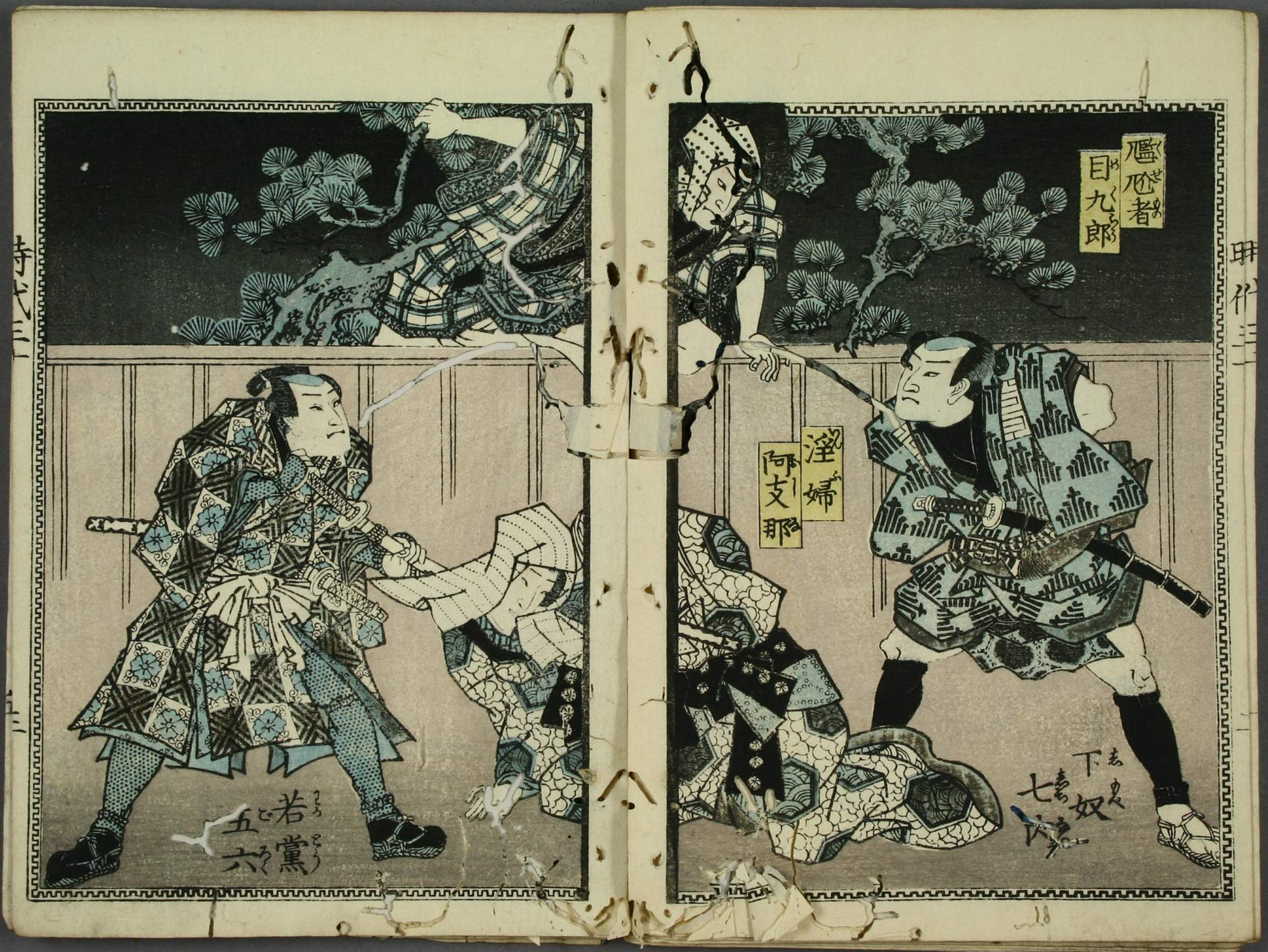
爲永春水作 梅蝶樓國貞画

淨書 箕田青洲

鏡小面の醜美ハ移せど心の善惡を移すハ罕なり。然ば面の醜きハ。紅粉にて上ハ粧ひ。心の惡く穢氣なるも。言ハ餝りて覆へども。跡より兀ていよ〳〵怯し。倘よく仁義八行の洗粉ハもて磨ばなるハ面ハ生得の侭なりとも。心ハ眞の美人となりなん。予が這時代鏡の如きも。婦幼の心ハ移さしめん。為に設し器なれども。紙員も薄き硝子細工。ものくしげに筆を立なば作者が自惚鏡と言ハまん。

甲子新春良辰 爲永春水記

白癡童次郎
鼠乃罠
鼠
罠
茨木屋鬼門次

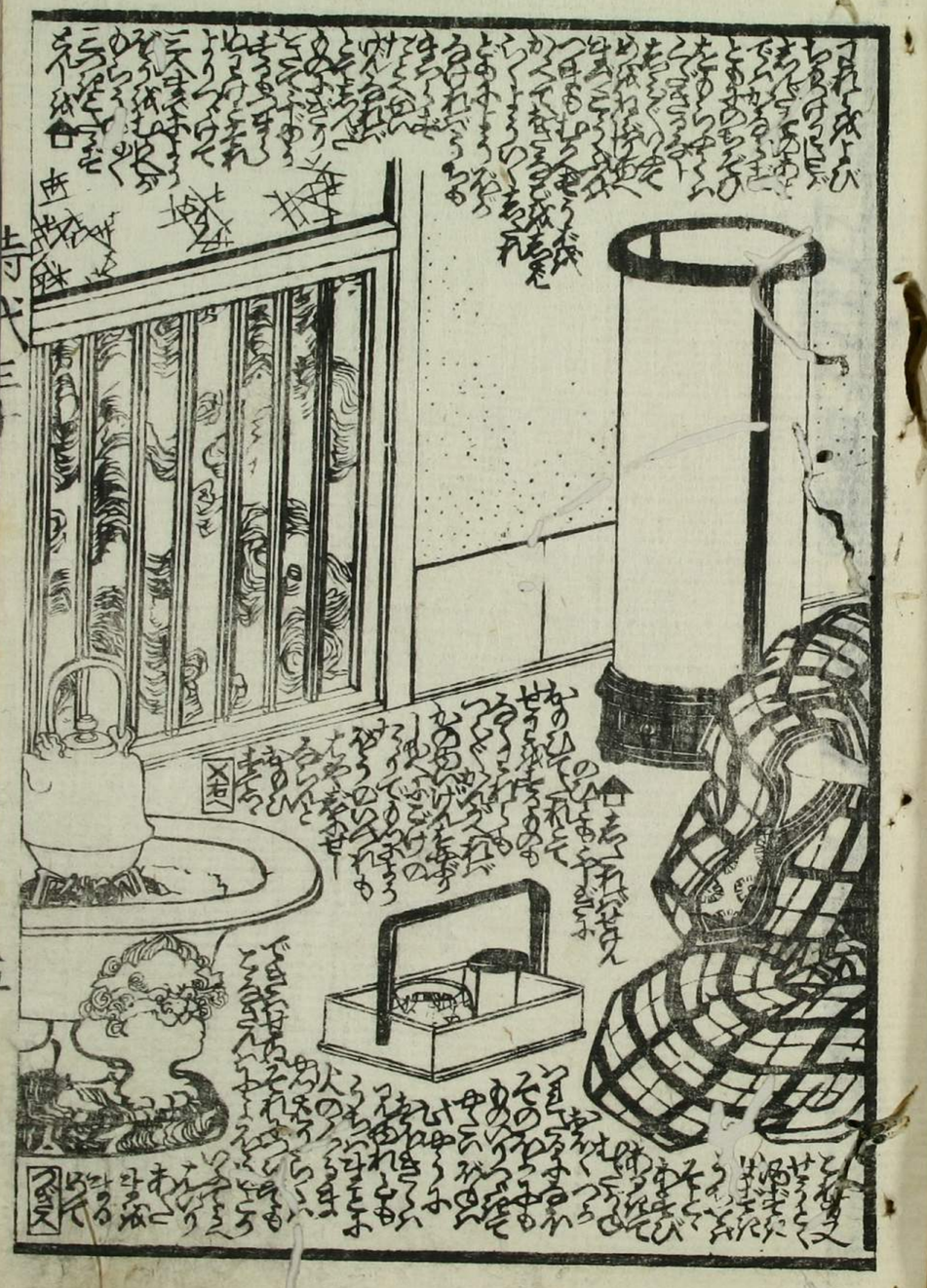


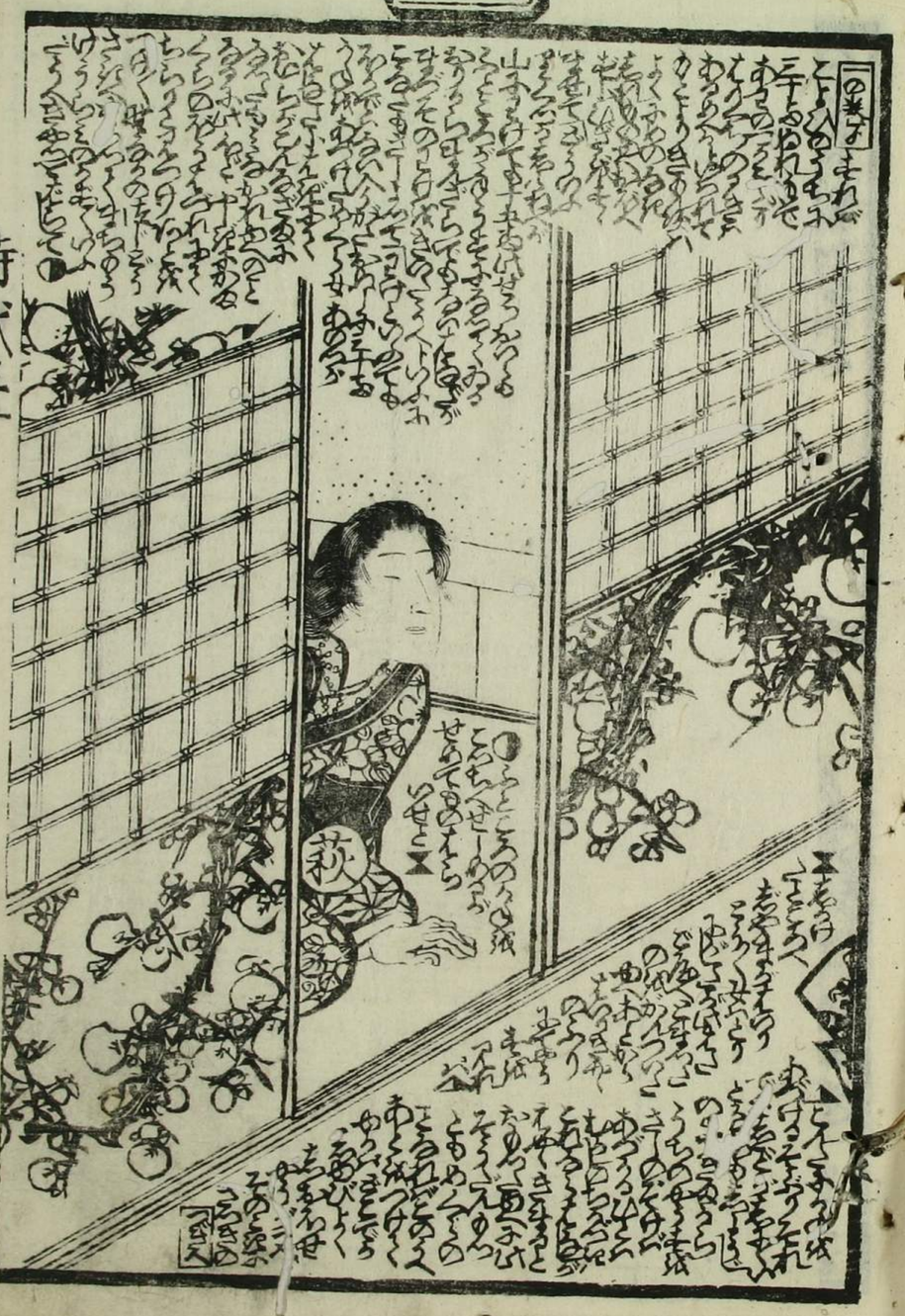
若黨五六

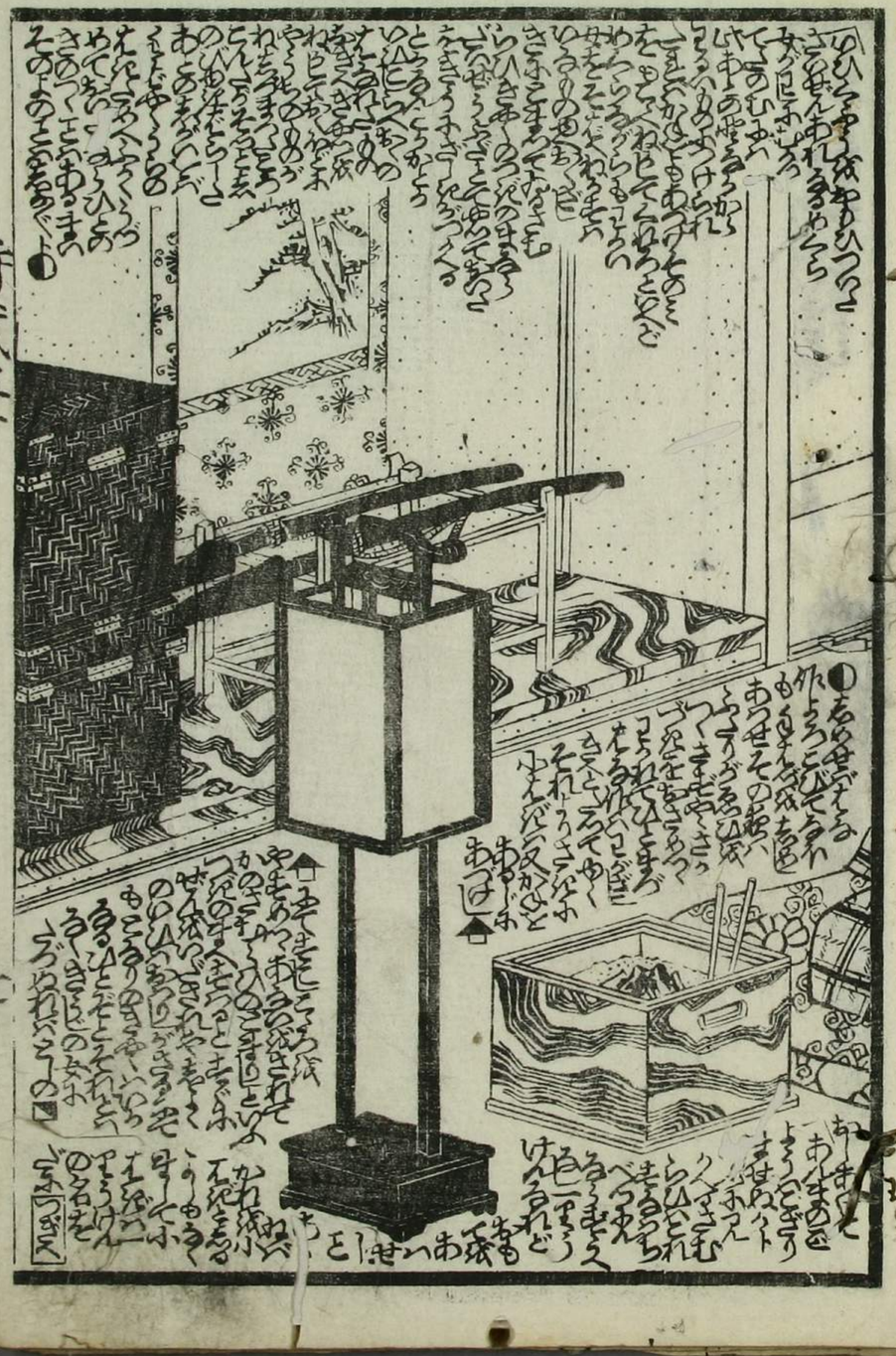
花

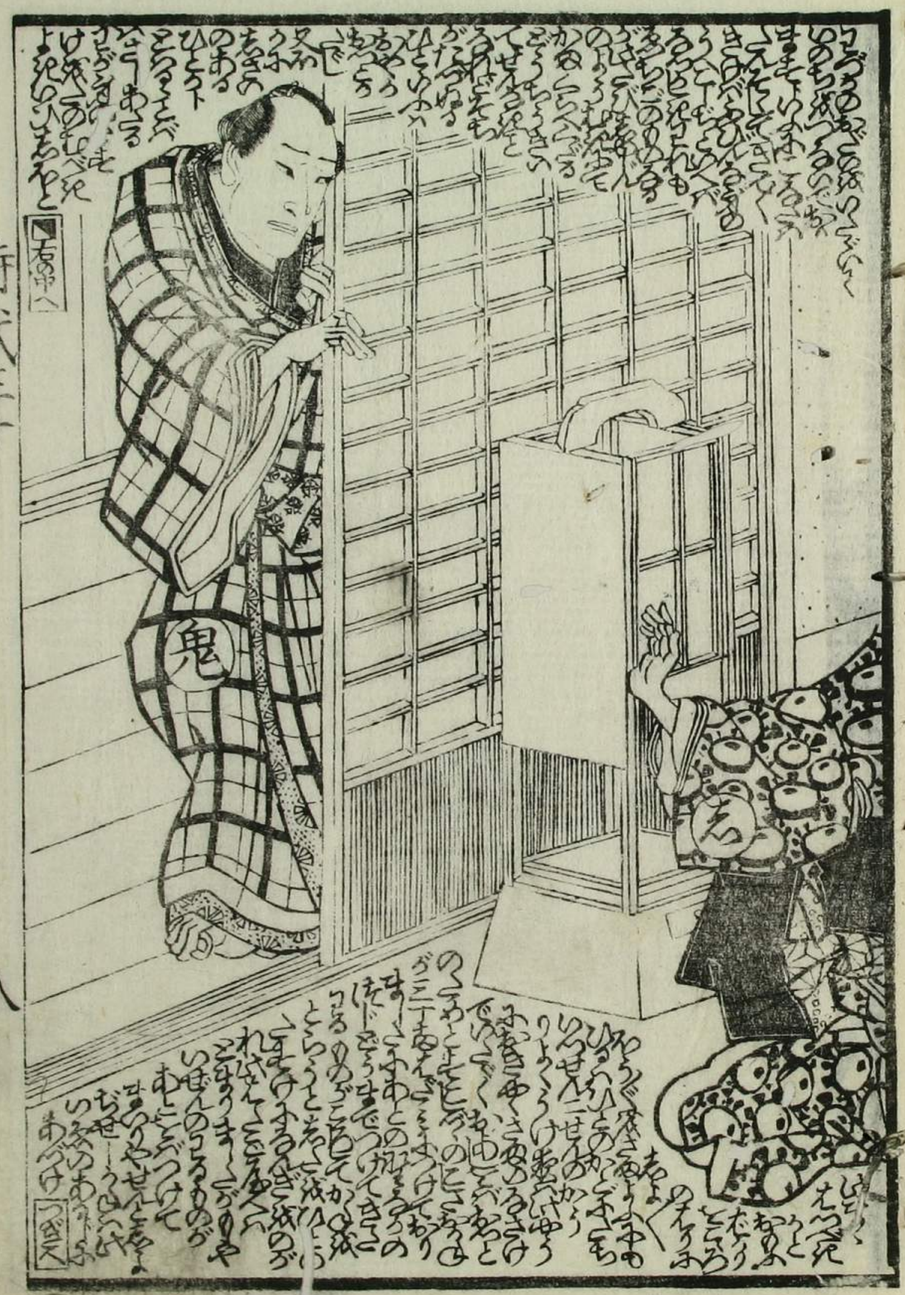
鬼

花
鬼

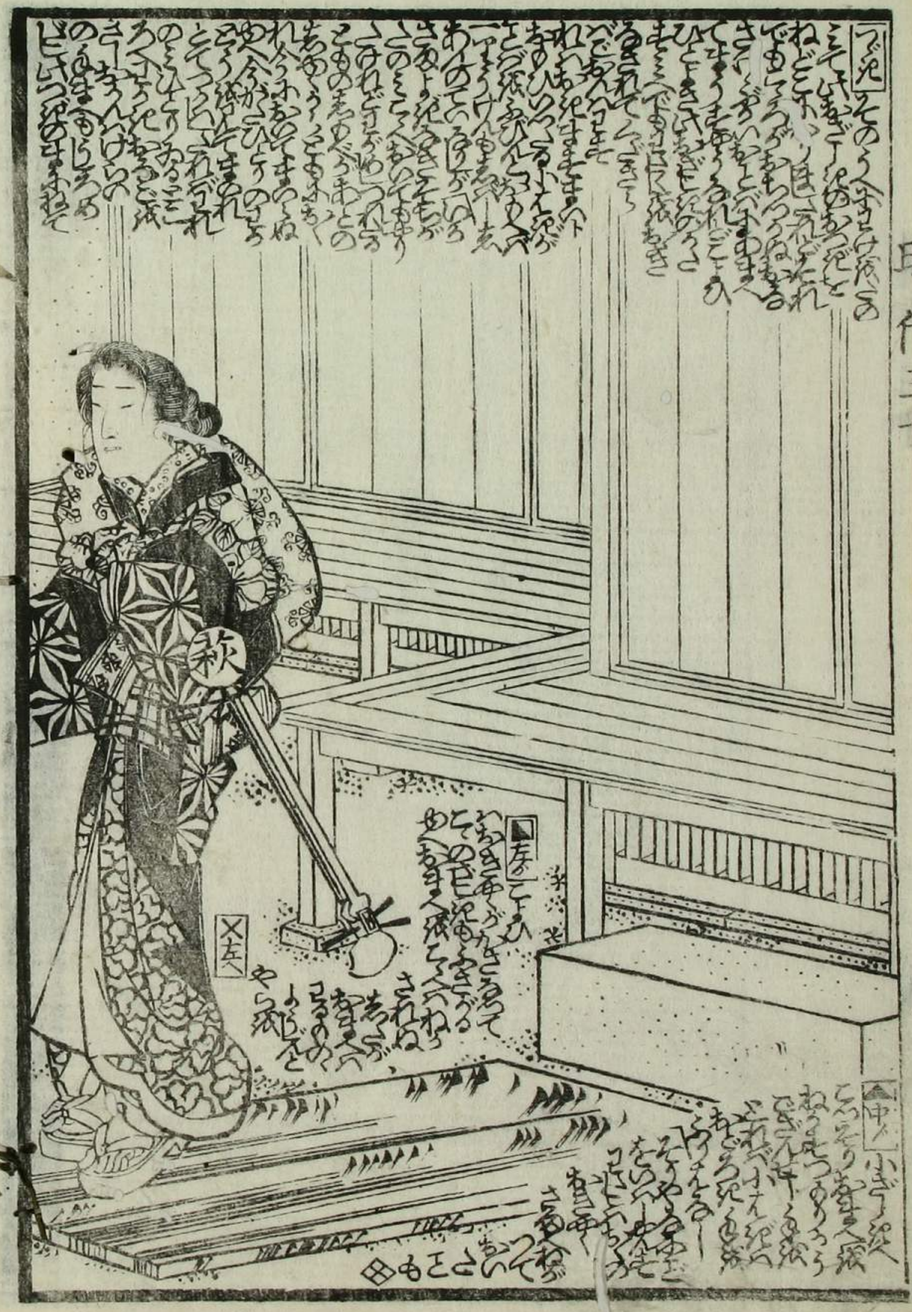




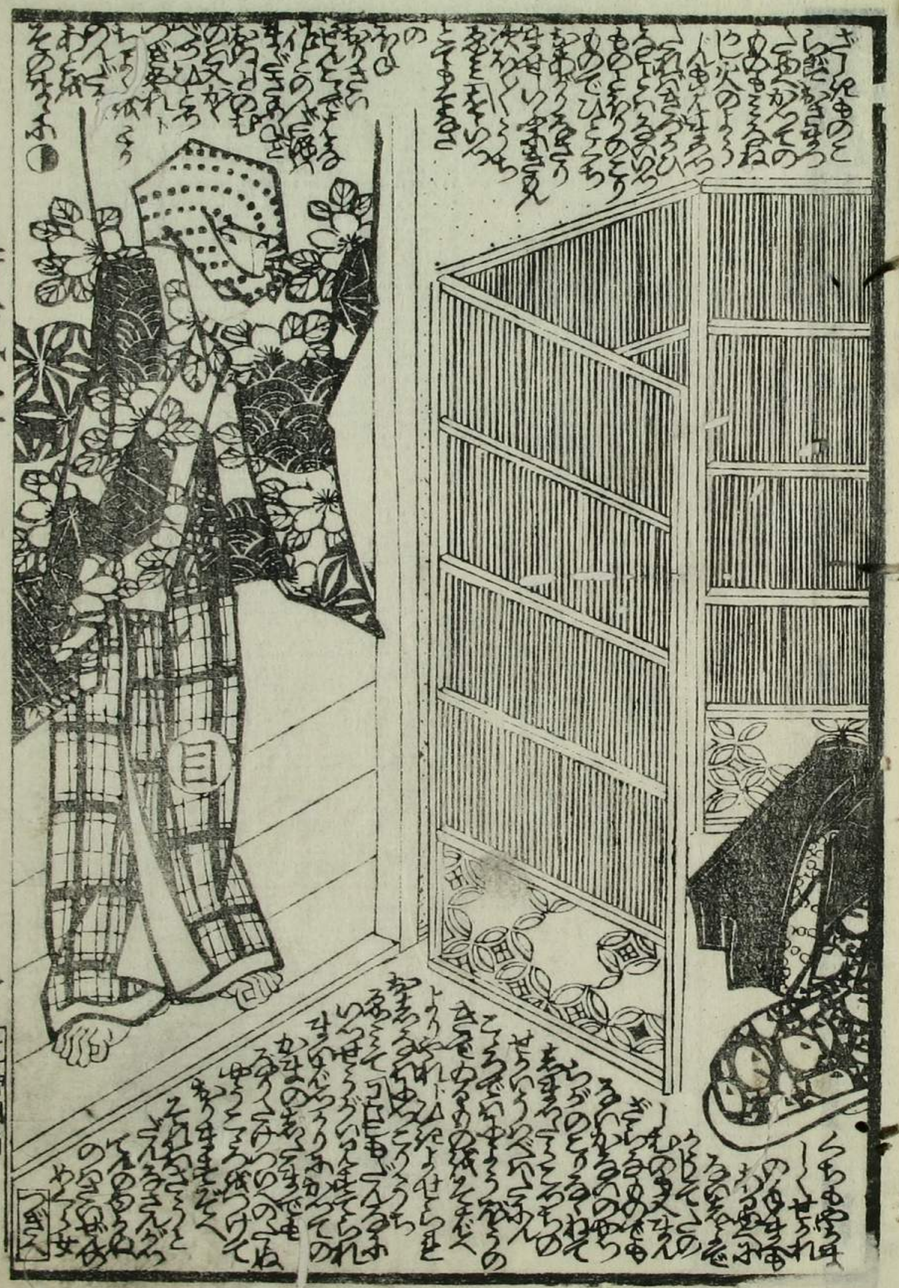



鬼

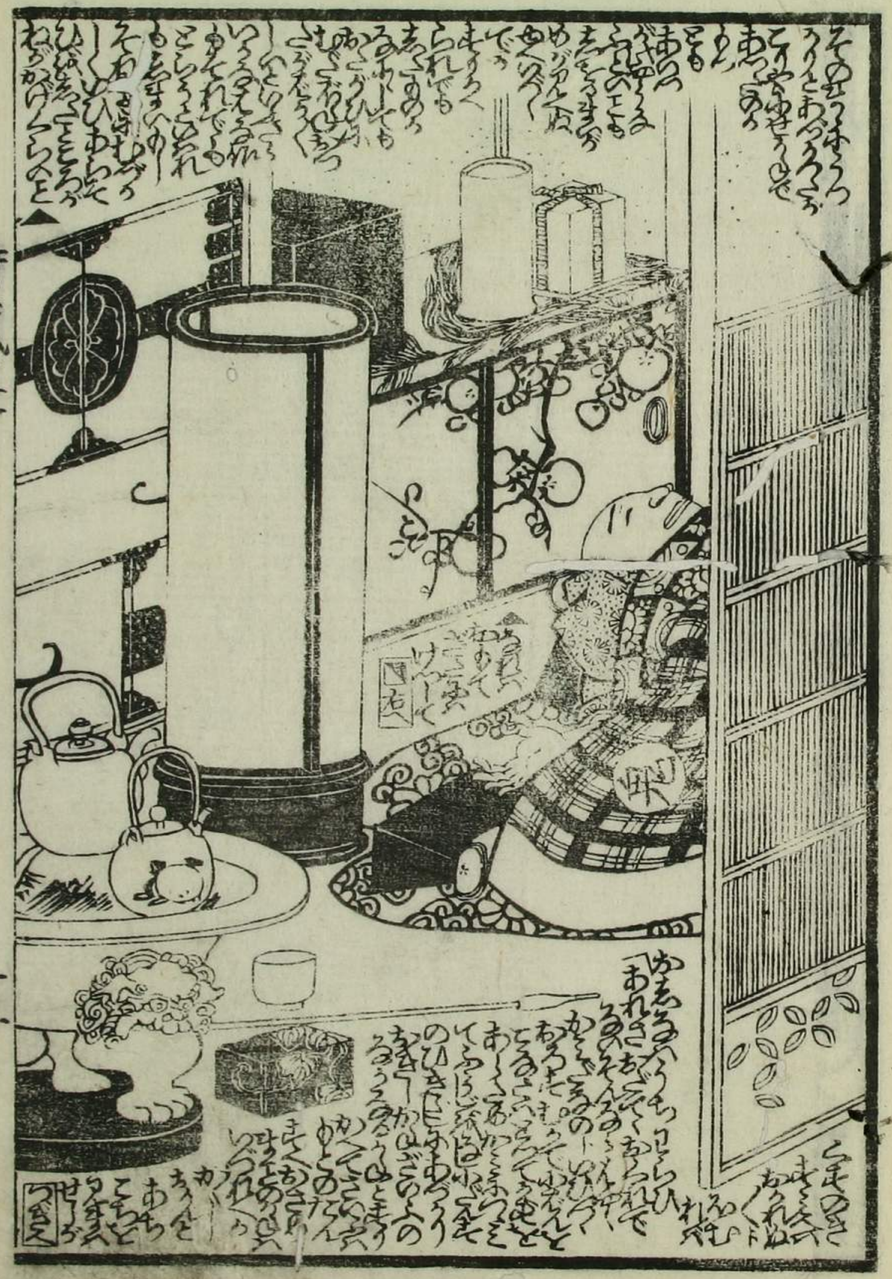
萩

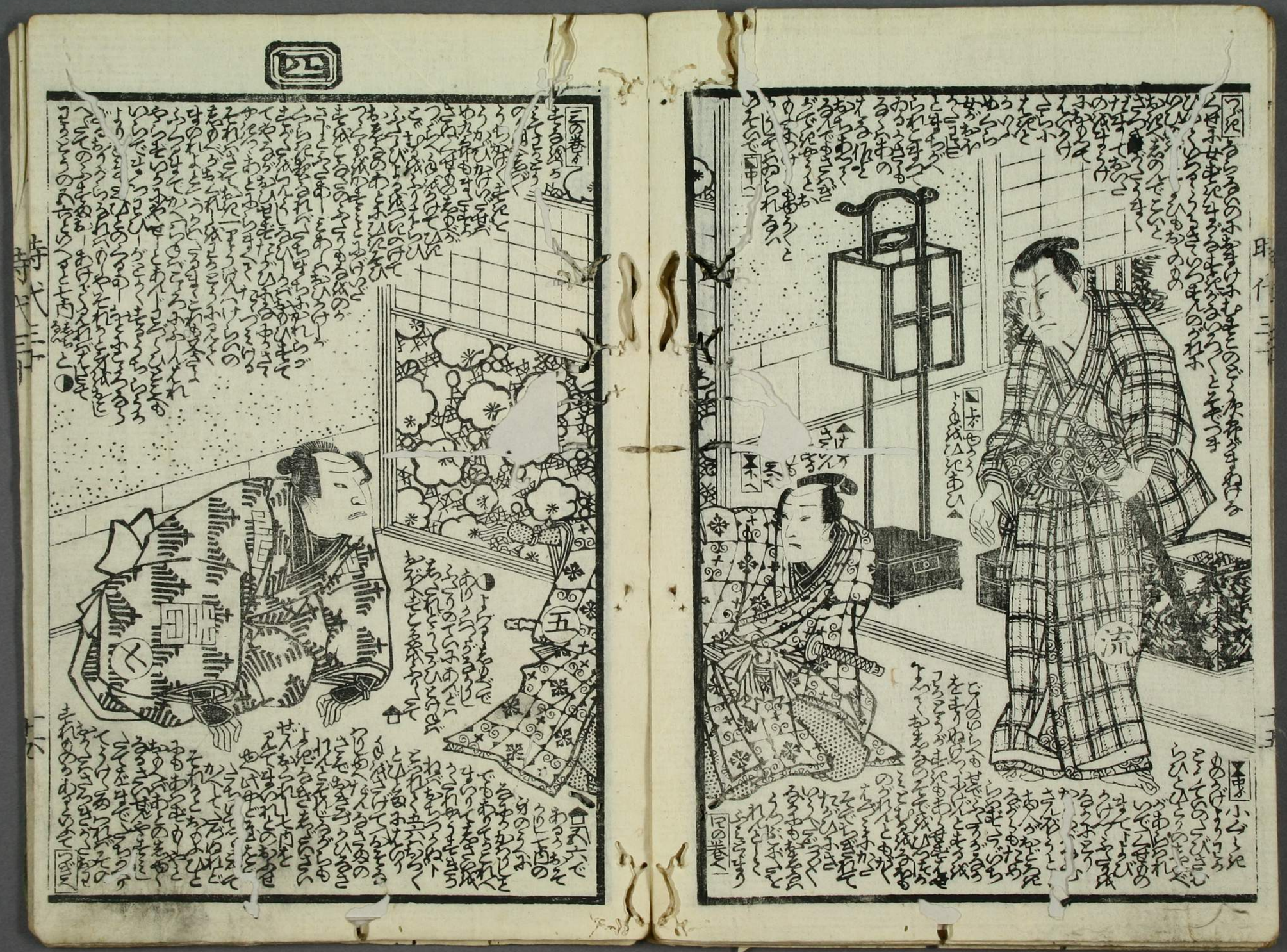


鬼


目

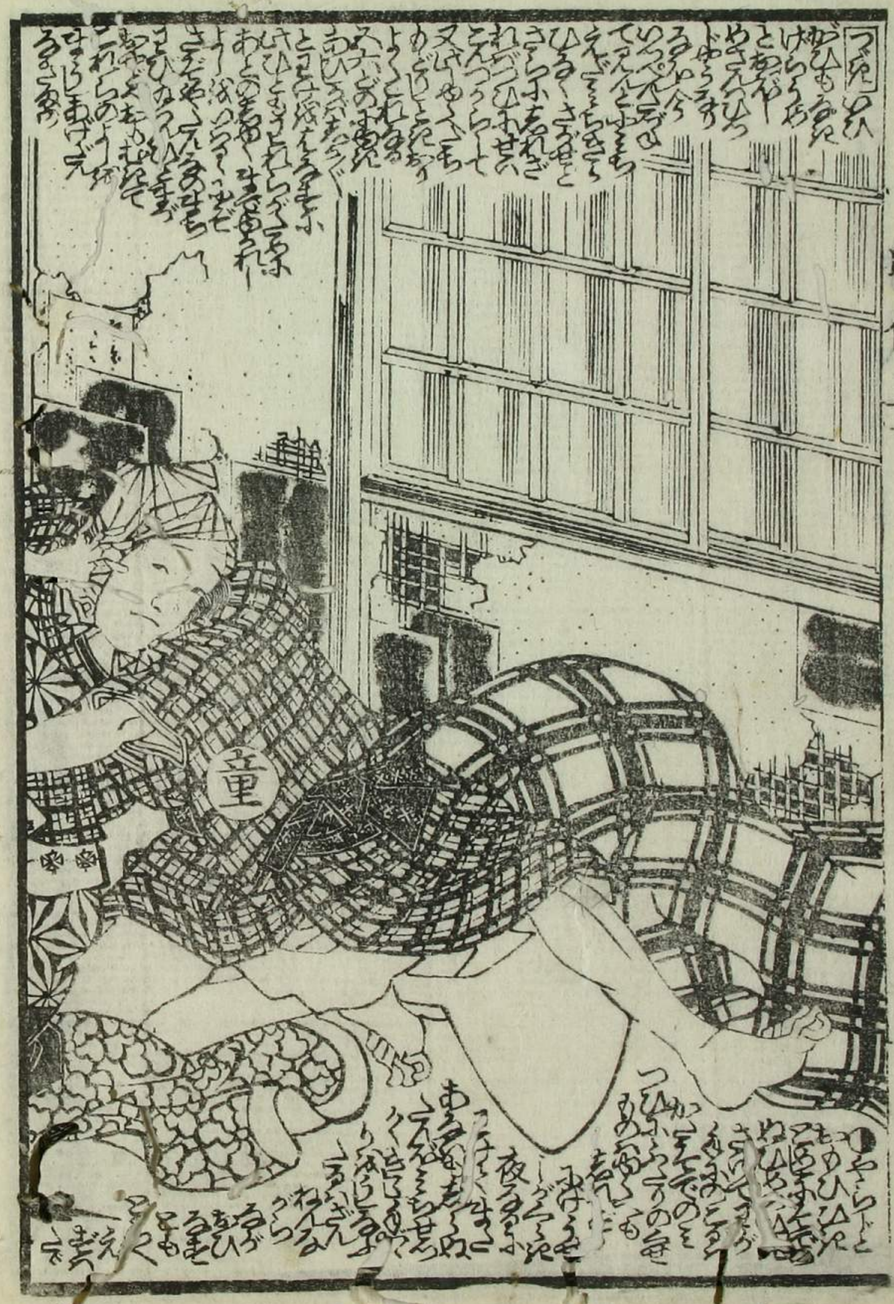
三
鬼
春水作
國貞画
若狭屋与市版



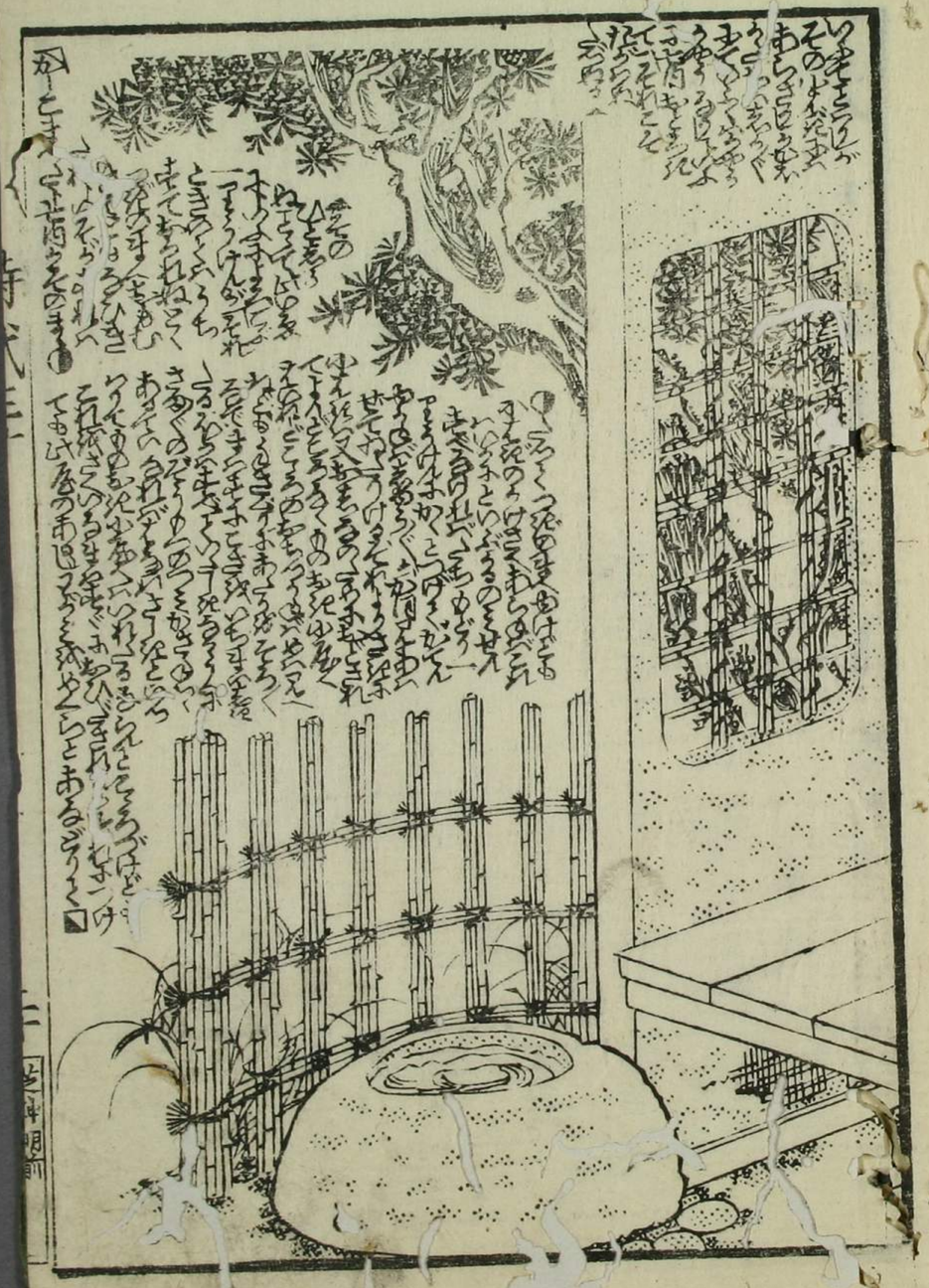


五

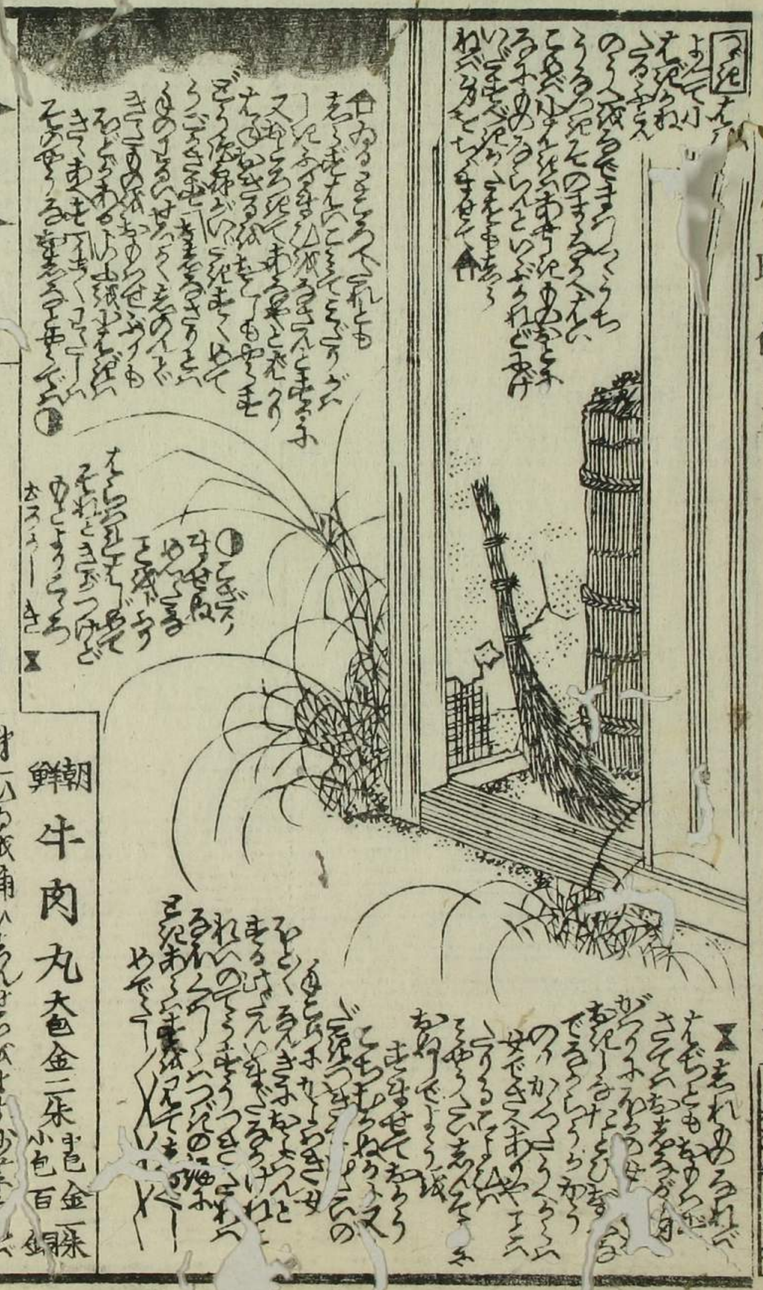
七



花作小萩を暗殺せんと
一室を出る物置小屋と
窺ふ支後輯に委し



春水作國貞画



朝鮮牛肉丸 大包金二朱 小包百銅

深崎氏製

文久四甲子年新刻目録

北雪美談 時代加賀實 三十編 日り 三十五編 迄出板 為永春水作 歌川國貞画

雜談雨夜質庫 六編 七編 出板 為永春水作 一陽齋豊國画 門人 國久画

庭訓武藏鐙 應賀作 六編 揃 國貞画

東團扇

地本草紙問屋 若林堂 芝神明前 若狹屋与市梓

時代鏡三拾篇

為永春水作

歌川國貞畫

若林堂梓

北雲美談

時代鏡

卅三編

為永春水作

歌川國貞畫

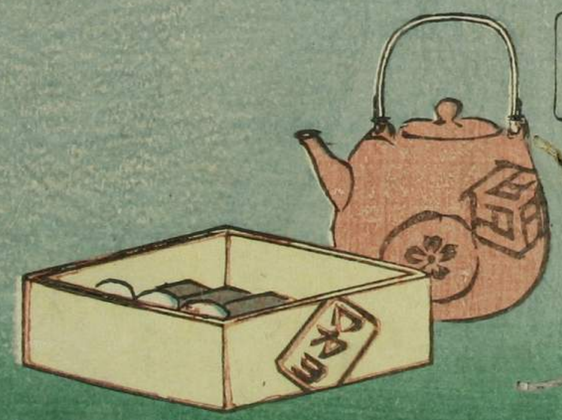
小雪
差撰
時代

加賀見

辛三編
上の巻
國貞画

春水作

芳雲棒
司馬



北雪美談
時代鏡
二十三編上
春水花
二十三編
甲子秋鑑
國貞画
若林堂壽梓
仆題曲亞國画

北雪美談 時代鏡

三十四編上

乙丑 新英

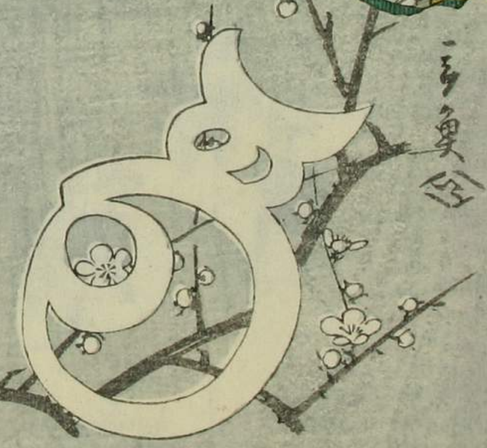
三十四編

春水化 國貞画

外題豊國画

芳林 文庫

時代鏡三十四
編下冊
爲永春水著
一壽齋國貞画
若林堂



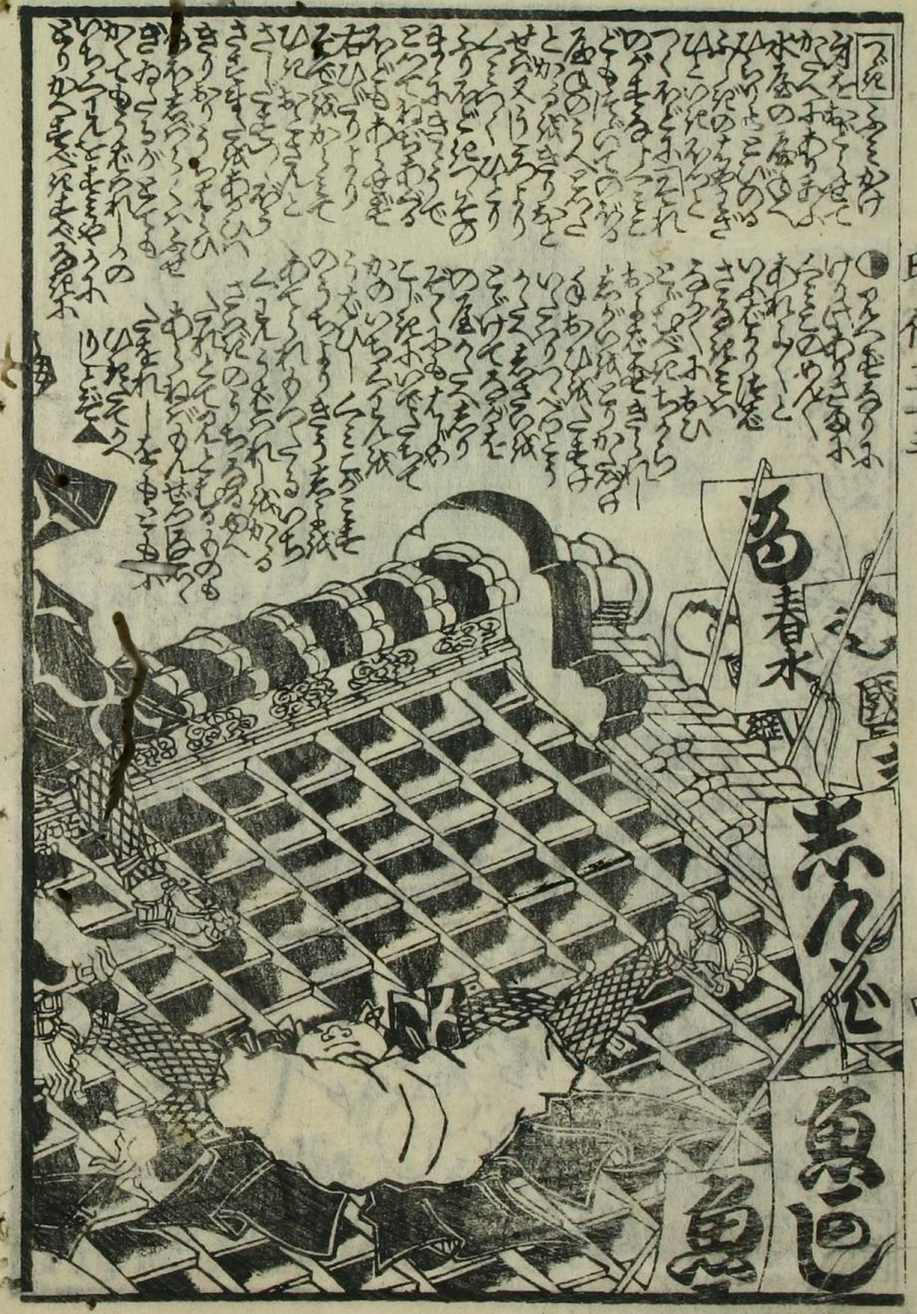
總じて作物語ハ。寂たる後にハ艶場を見せ。時代に世話と挾むなれて。看官をして倦しめず。然だ六段目の身售にて。たつぷり泣せたその跡ハ。茶屋場に移してまつたりと目先を換た作者の手柄。とハ知りながら僕等ハ。是ハちうぷらら一寸斯うやつて。ト自由に筆の動かぬハ。遅いと酒を飲まぞへと書房に屢責られて。風雅でもなく。洒落でもなく。詮術なさの山の段。かの稲妻が躱家と。とてご所へ忠臣藏の。文句を借て這編ハ。先ヅ幕にして閣夏しつゝ。

甲子新春

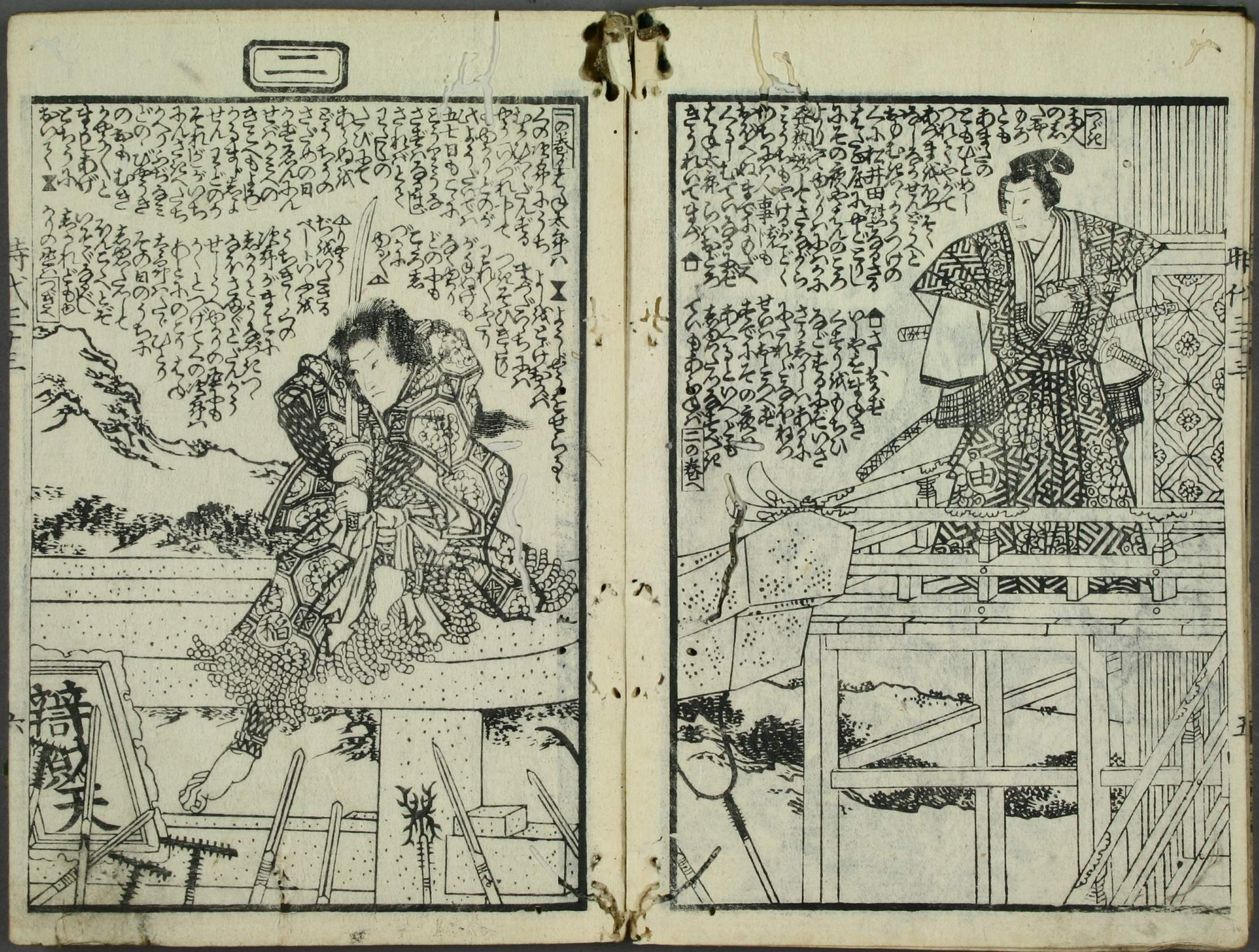
爲永春水記

餅商客正七
もちひ
あきひと
しやうしち
兒女越路
淫婦阿無天

奉納

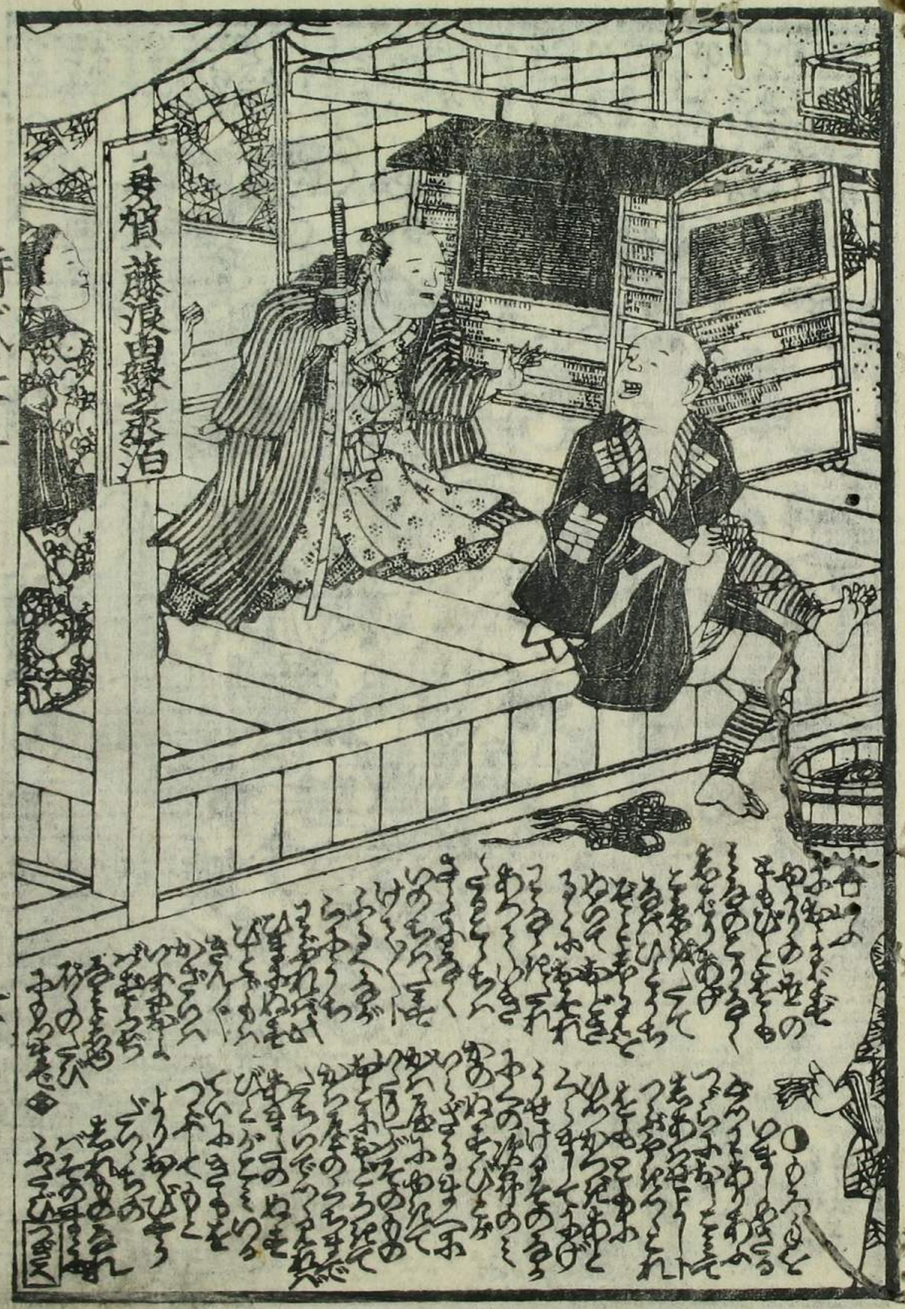

春水

稲



二の巻へ

関車請
浪花清
懸賞来請

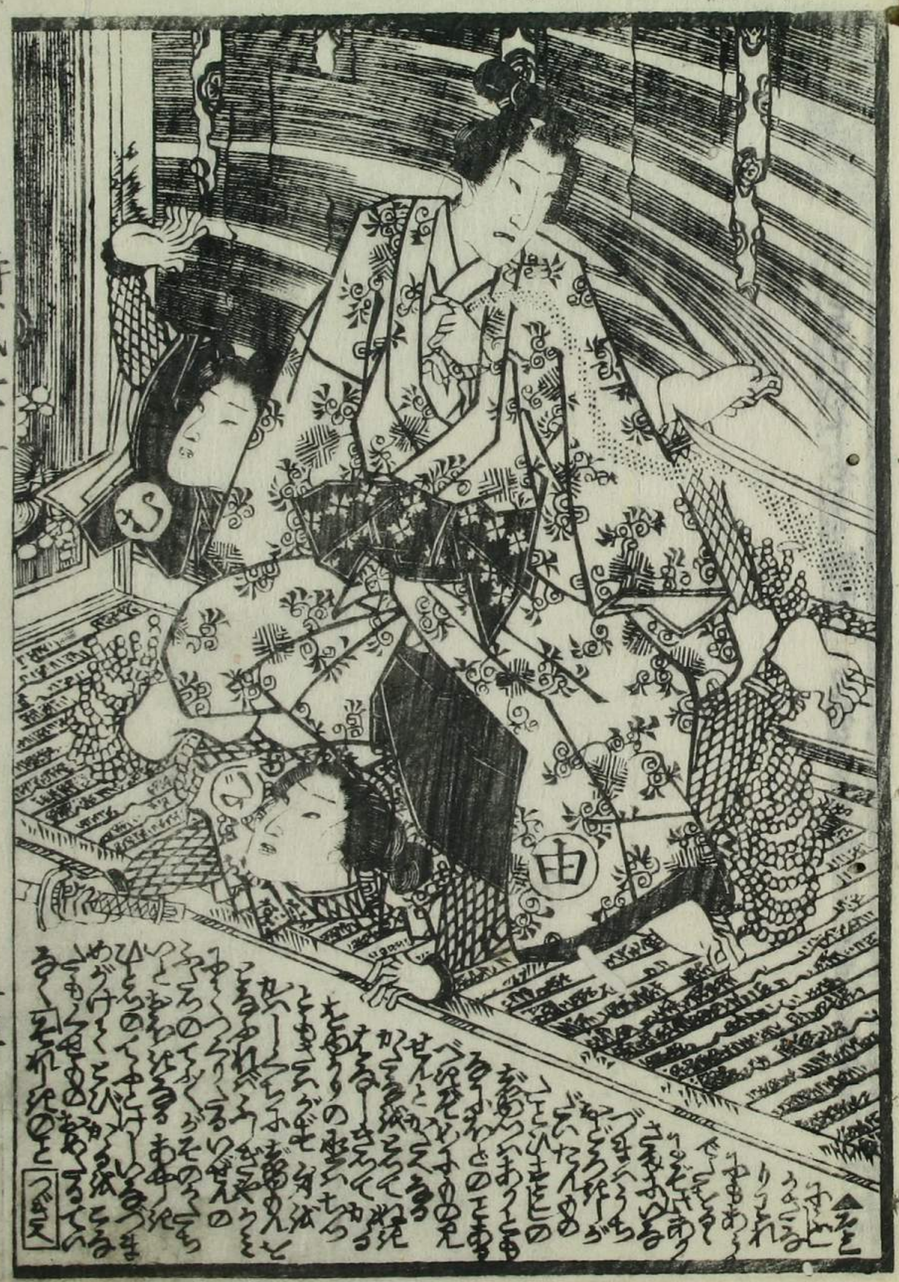

夏賀藤浪由縁之丞泊

春水作國貞画

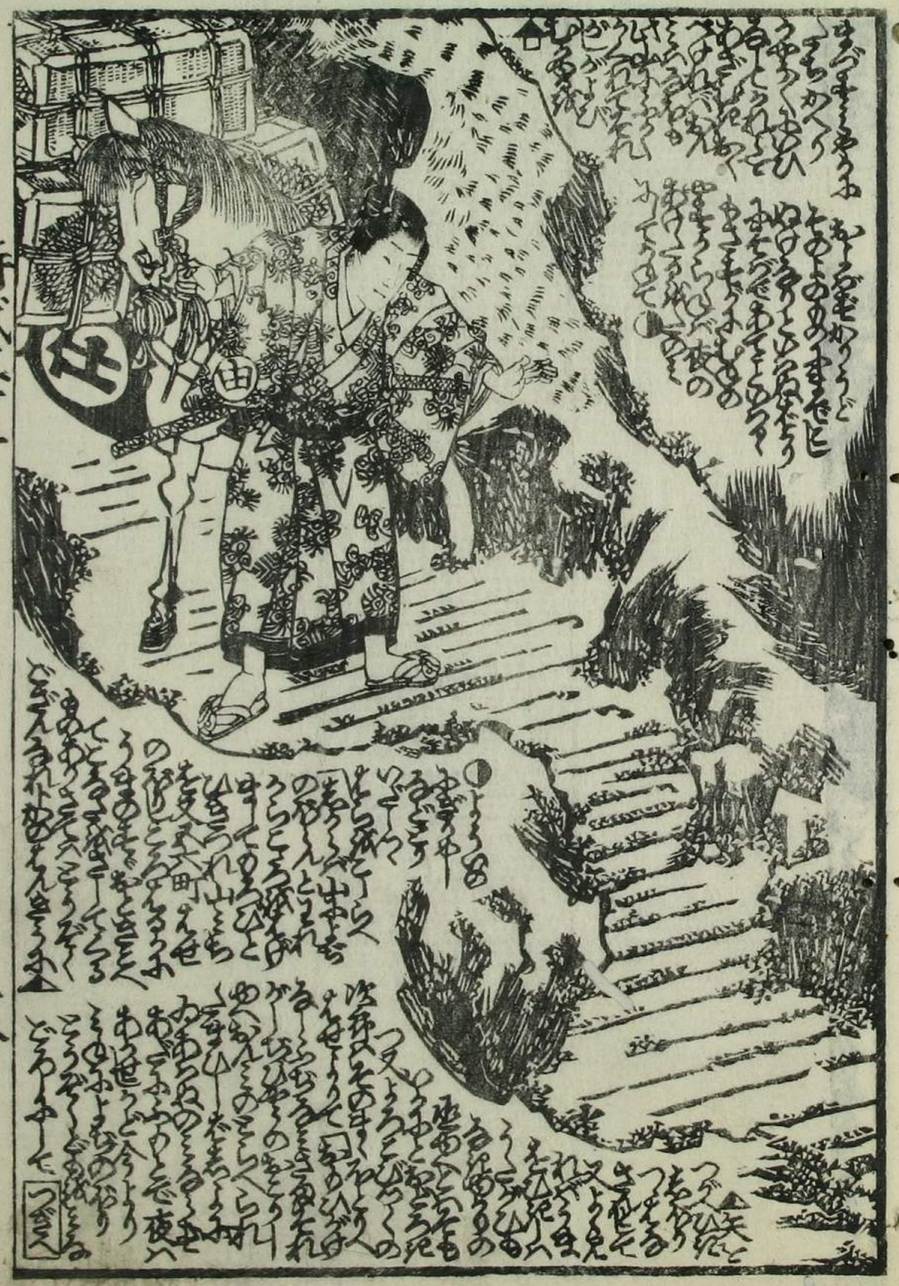
由

稲

稲


由

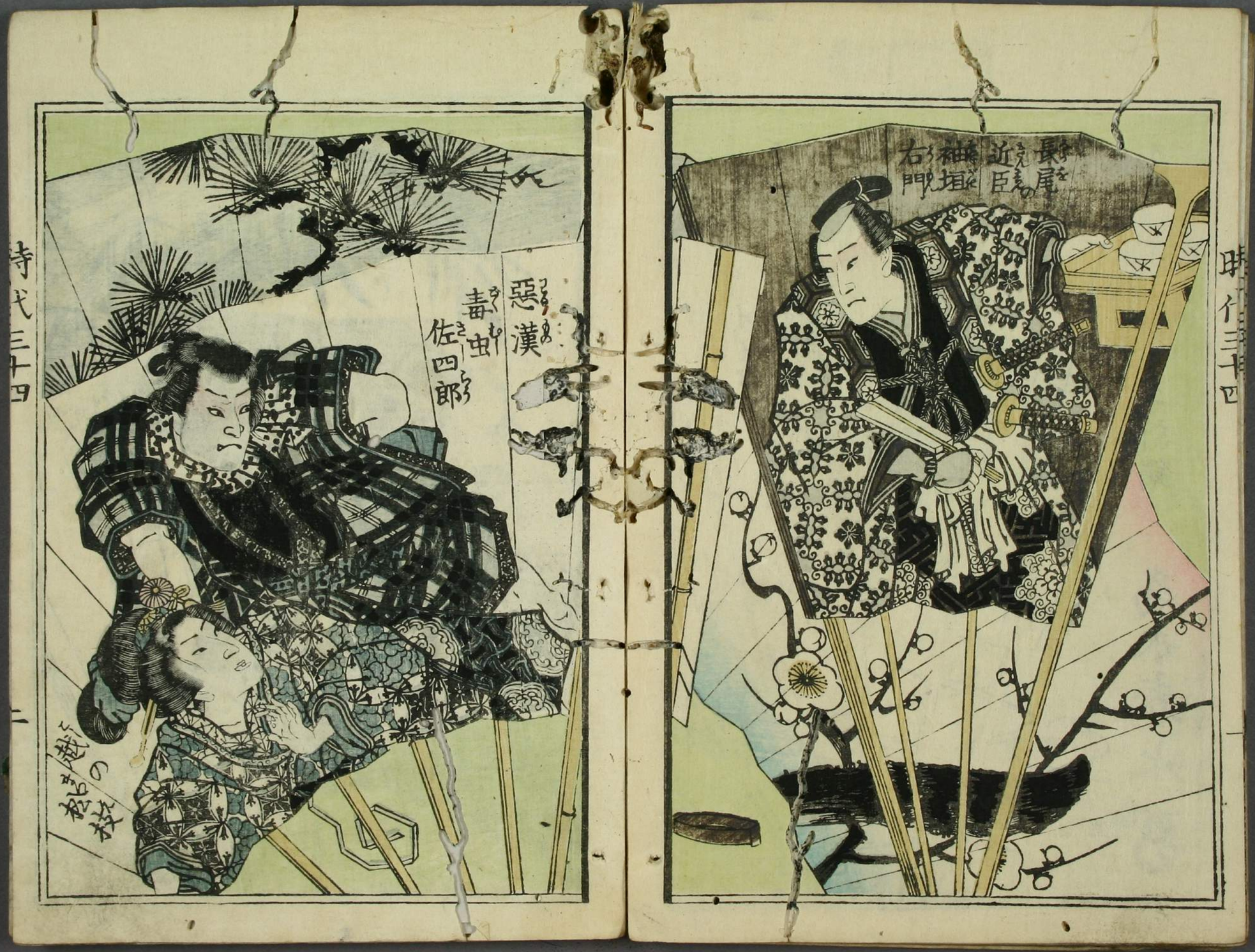
稲
由



朝鮮牛肉丸
大包 金二朱
中包 金一朱
小包 百 汨
深崎氏製

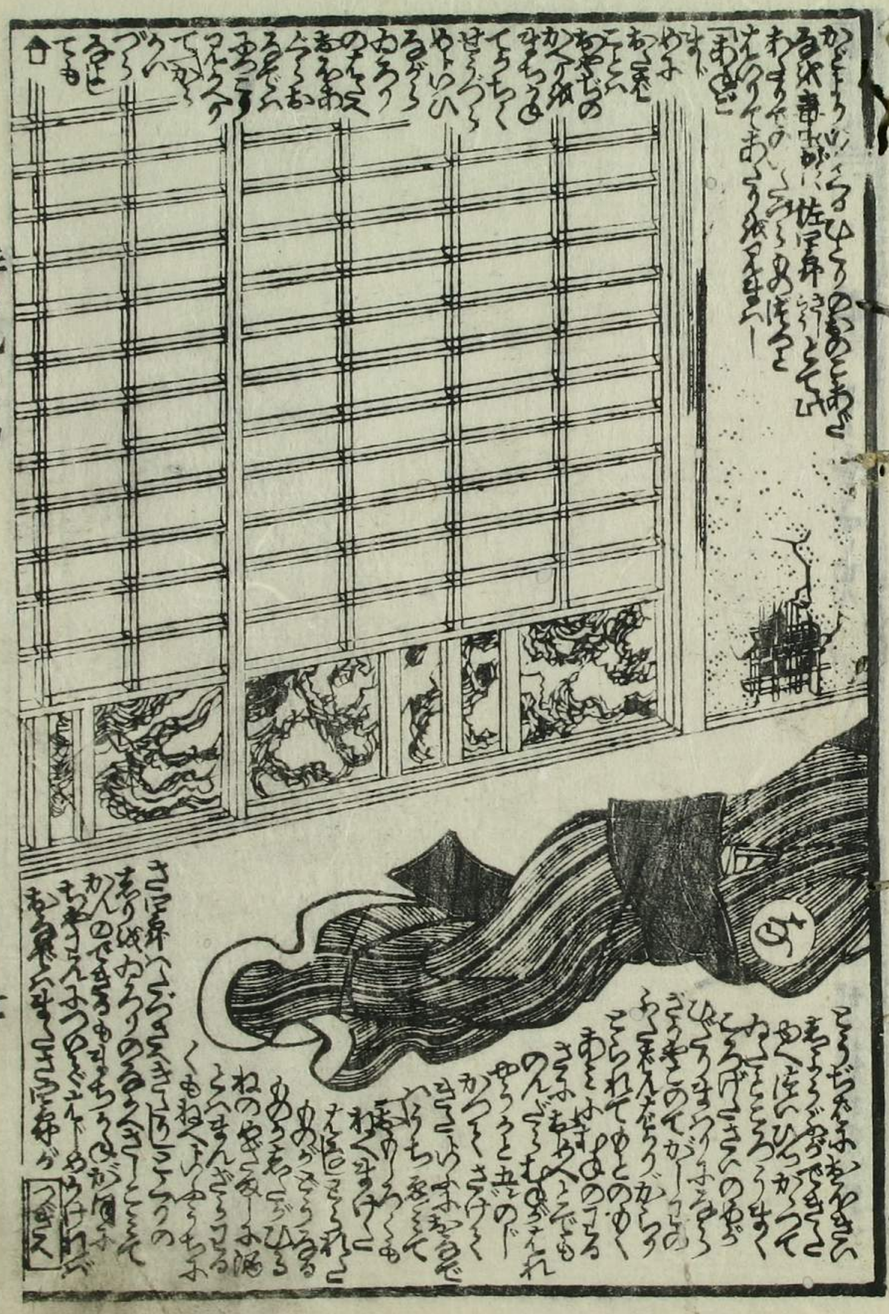
春水作
國貞画
淨書 青洲更菊苑

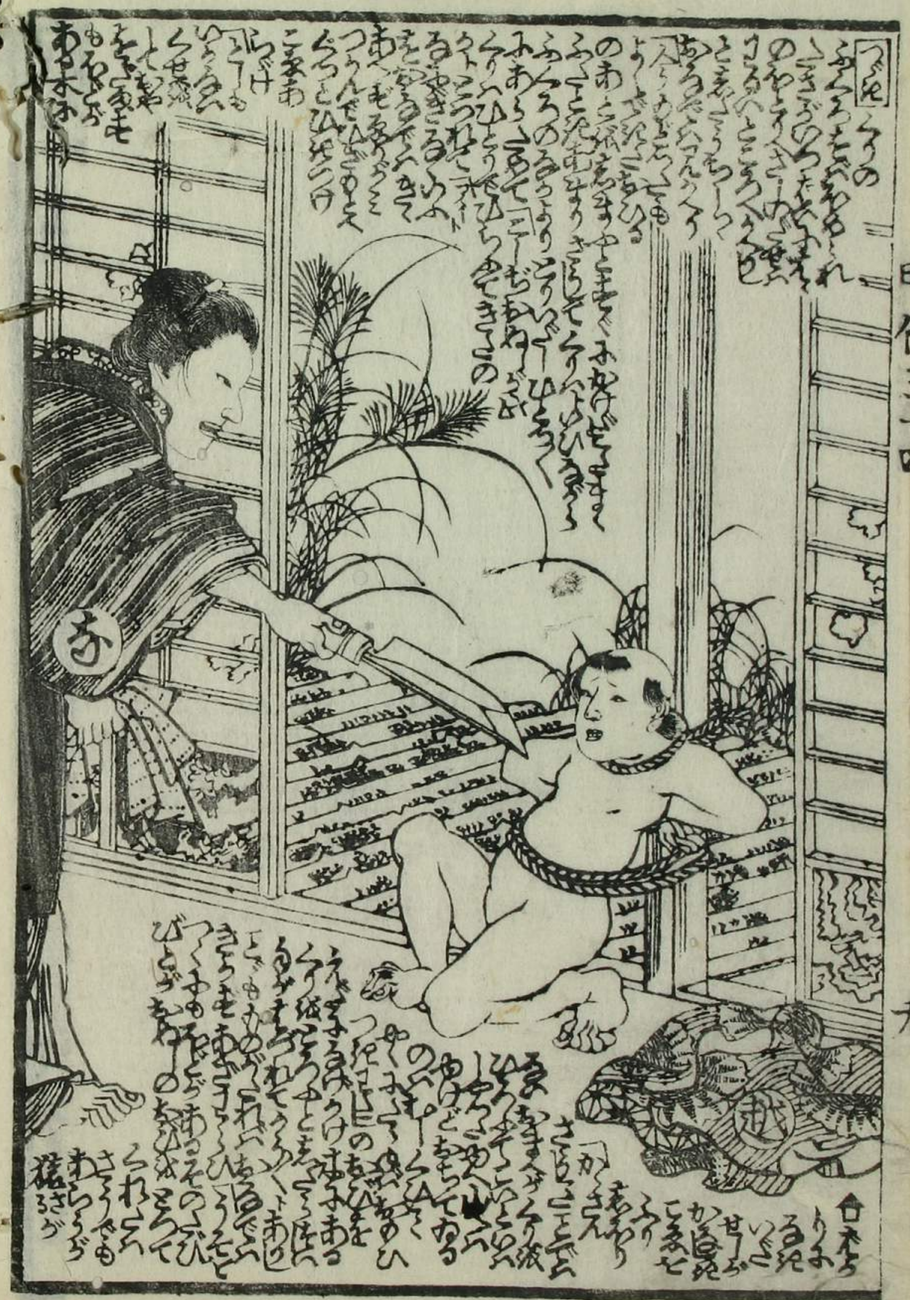
元治
甲子新鐫
爲永春水


長尾の近臣
袖垣右門
惡漢
毒虫
佐四郎

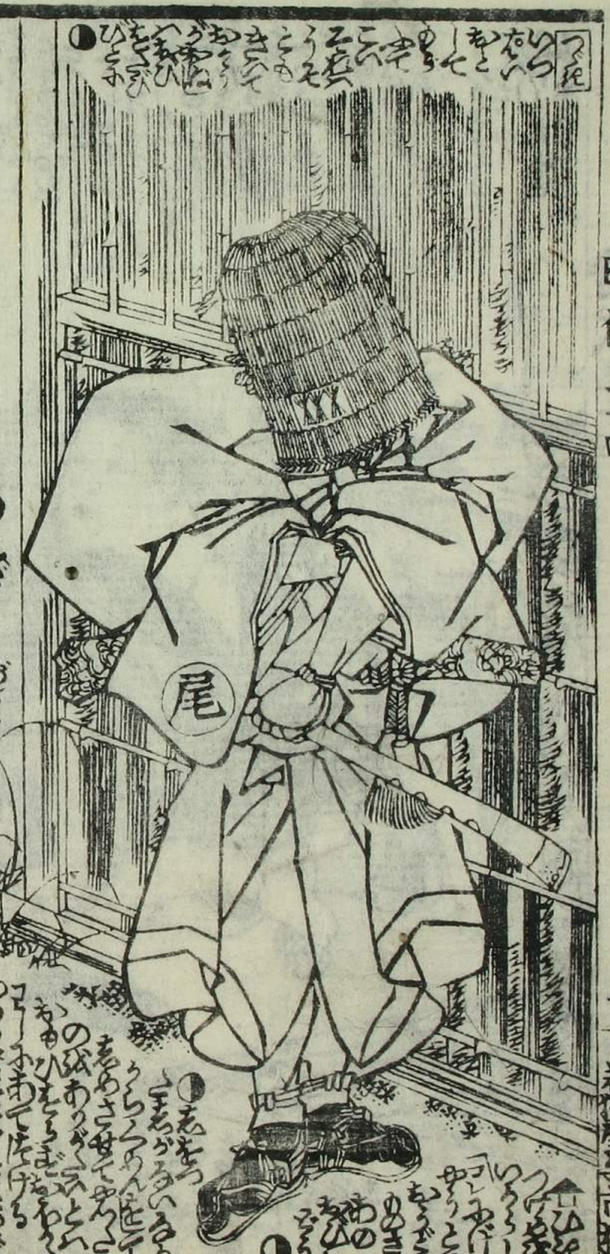
尾

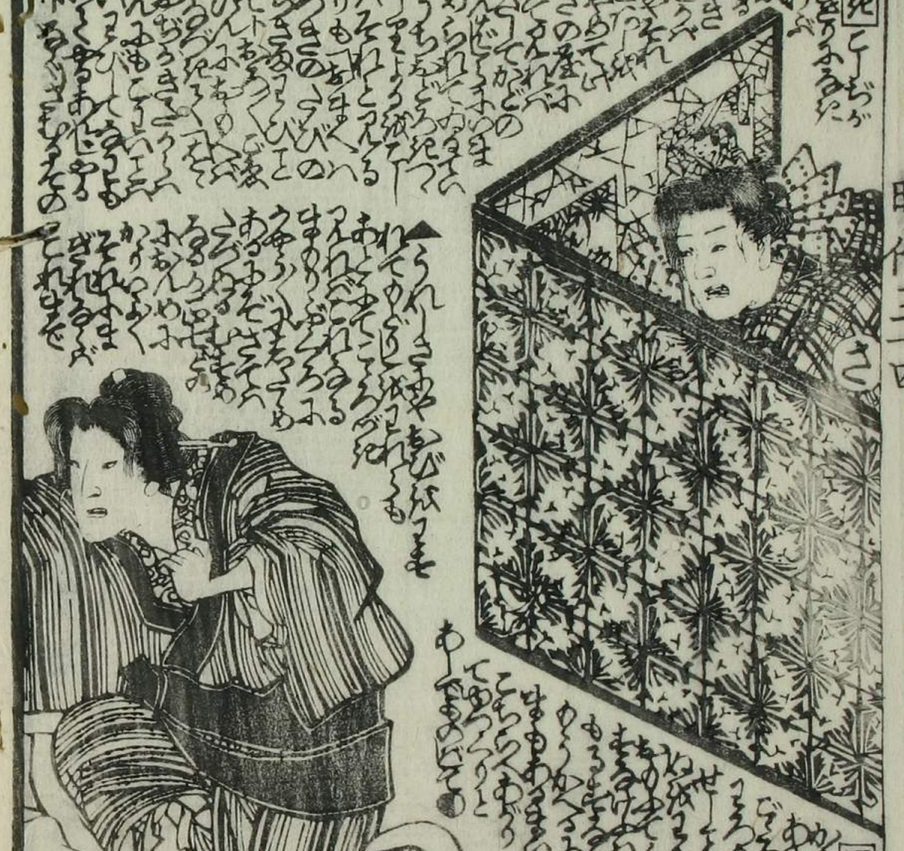
越





春水作
國貞畫





[つゞき] うけくるられば、すうまもんぢ
かりわるこるかくろうまをきさのんの助
さゑのあるふとまつてくるいくそい
もつこれどもこゝまくなぎくるいてい
るれんべこわいわれてゐんくるう
よろうぞよつてあいこゑまつ
つくりぬてくるーぐそうばのりと
あるくろきねのわせとられ
どもこそひけ知かねね
とてもあーこゝまいの
あろさこれもたのむい
そもくもうぬとと
あるおゆふいうぐら
そもむうくぐるこくの
こるんゆとといけん
まそるうろうばうもそ
おろれねまうぬくよん
ふる里るれこちくと
とろぐうぐるゆさんのの
ひふむねてくるれどもさん
いくねとあー
るこちそ
ふこのそのまつ
ぬるうぐ
ものふ▲左へ

[又方] せーうとあうひゆ
二三天どのそのふまうろ
さらーせばつまゆいろ
まろさきるとうーぎ

[上方] あひぬのつこるかれいふる里
ゆくゐれげこそれぎうう
うぐこまのはせーぬ
こくいろひきこう
ートかのくんくわえぐ
そうまーこわえぐ
いひーあのむばふ
るうそうくうどをも
平うまうくうる成
あるでいきて
わでぎおぎこうこ
ひんこんうてて
ふうまのいひうけ
ぎぐんぐいぬん
ふる里でいろどを
しこのろけまで
うみさせられくば
うてさえんぐるくぢ
のこるゆとやう
ちとうけゆこん
るーくられくゆけやそのこのろけ
さうばよううふひとこと
ものふ▲左へ

[つゞき] うのまつこひ
のこまのまうぐ
のこつがる
うてすまの
せーうぐそれよう
ぬーせんぐんぐいひれん
ばいの日
ばうこのくふまでいふうぬろうる
きこひこのまうぐいひしてくれうぐまの
あーるばうこうぐいひしてくれうぐまの
うとぎーぬるうぐこるぬうぐ
ふいひうけーとんもつまうぐ
うのさんつうぐもすーてえんをもうぐ
ぎればぐぬうぐさくるのんひつうぐ
もうぐぬうぐこのくそのくうぐ
ひせんるうぐいさくるのんひつうぐ
さてくえちうぐるのんひつうぐ
そうでうぐるのんひつうぐ
やぐうーふうぐるのんひつうぐ
ばいでこそぐうぐるのんひつうぐ
かりふうぐぬのちぎうぐるのんひつうぐ
くうぐいこのさぬーこぐるのんひつうぐ
そのの名をうぐそこのんひつうぐ
やまーこのくらぬこうぐるのんひつうぐ
ものひぐけうぐるのんひつうぐ

[右方] ▲右へ

[左方] ▲左へ

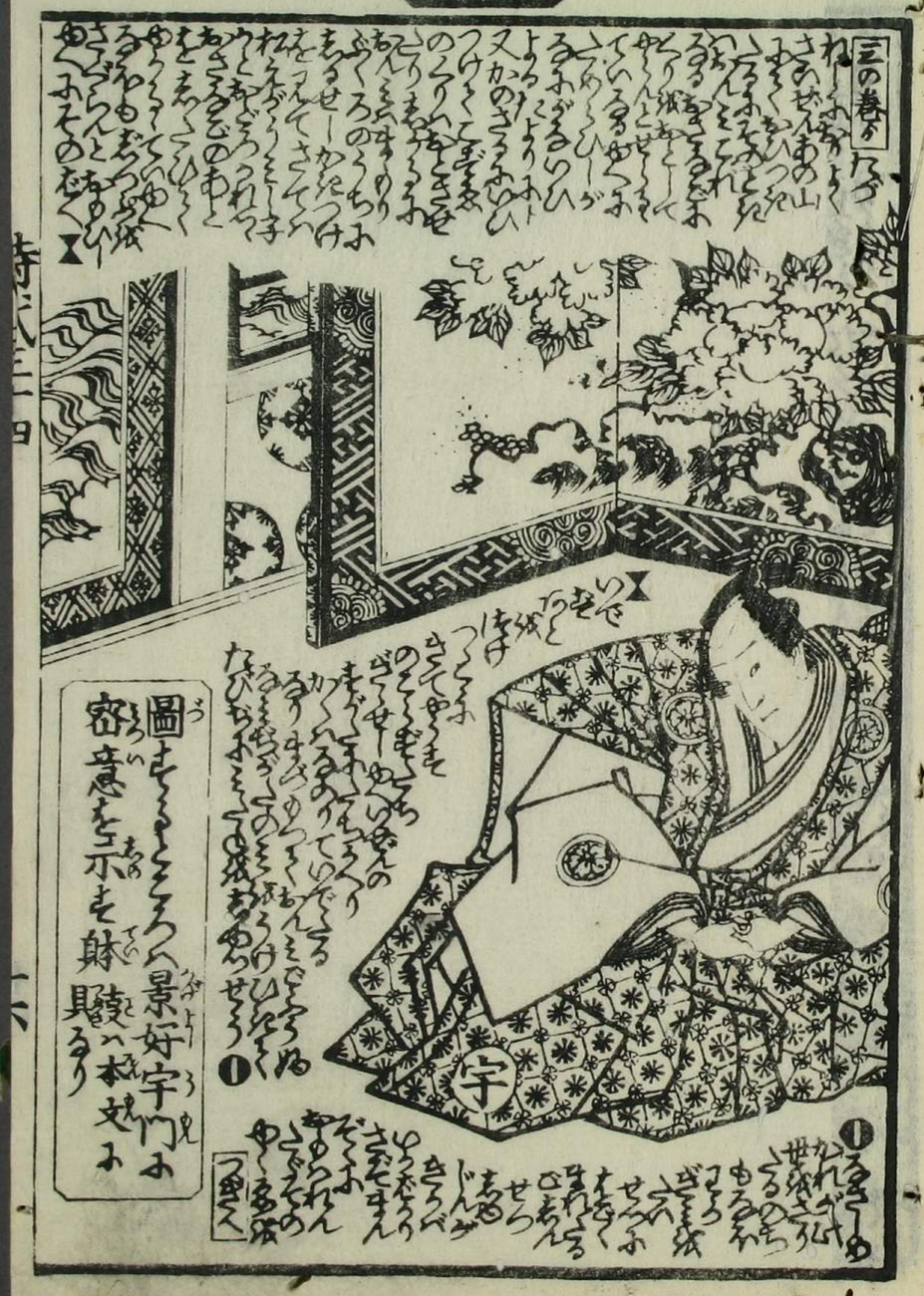
[右方] ▲右へ

[つゞき] うのまつこひ
のこまのまうぐ
のこつがる
うてすまの
せーうぐそれよう
ぬーせんぐんぐいひれん
ばいの日
ばうこのくふまでいふうぬろうる
きこひこのまうぐいひしてくれうぐまの
あーるばうこうぐいひしてくれうぐまの
うとぎーぬるうぐこるぬうぐ
ふいひうけーとんもつまうぐ
うのさんつうぐもすーてえんをもうぐ
ぎればぐぬうぐさくるのんひつうぐ
もうぐぬうぐこのくそのくうぐ
ひせんるうぐいさくるのんひつうぐ
さてくえちうぐるのんひつうぐ
そうでうぐるのんひつうぐ
やぐうーふうぐるのんひつうぐ
ばいでこそぐうぐるのんひつうぐ
かりふうぐぬのちぎうぐるのんひつうぐ
くうぐいこのさぬーこぐるのんひつうぐ
そのの名をうぐそこのんひつうぐ
やまーこのくらぬこうぐるのんひつうぐ
ものひぐけうぐるのんひつうぐ

[右方] ▲右へ

尾

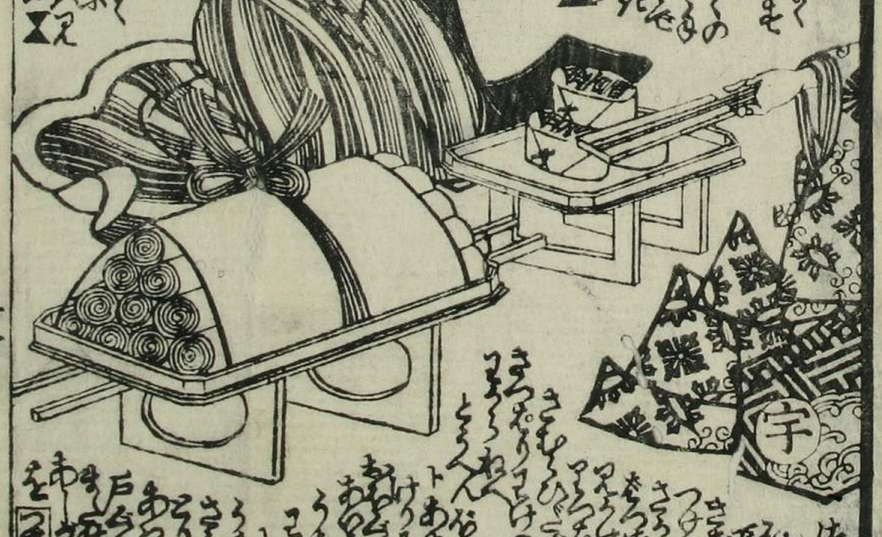
宇
ゑ



圖をもつてこゝろに景好宇門に
密意を示す躰は本文に
見るり

尾

赤


宇

正

浴室
有馬の温泉に闇六正七と
對話する事
又是次の
本文に見る
闇

正

間

正

尾

淨書 菊苑

朝鮮土肉丸 奄金二朱 中包金一朱 小包百銅

[illegible]

為永春水作 歌川國貞画

元治二乙丑年新刻目錄

北雪美談 時代加賀實 三十編 三十五編 近出板 為永春水作 歌川國貞画

雜談雨夜質庫 六編 七編 出板 為永春水作 一陽齋豊國画 門人 國久画

庭訓武藏鐙 應賀作 六編 國貞画 揃

東團扇

地本草紙問屋 若林堂 芝神明前 若狹屋与市梓

風流画半切

越前奉書紙 ○ 稲むしろ御 [illegible]
伊豫奉書紙 ○ かんぷし御 [illegible]

御道拙第入 [illegible]

上製 御文箱 [illegible]

若紫 [illegible]

[illegible]

目録包 [illegible]

一世一代 豊國百首

奉書摺にて [illegible]

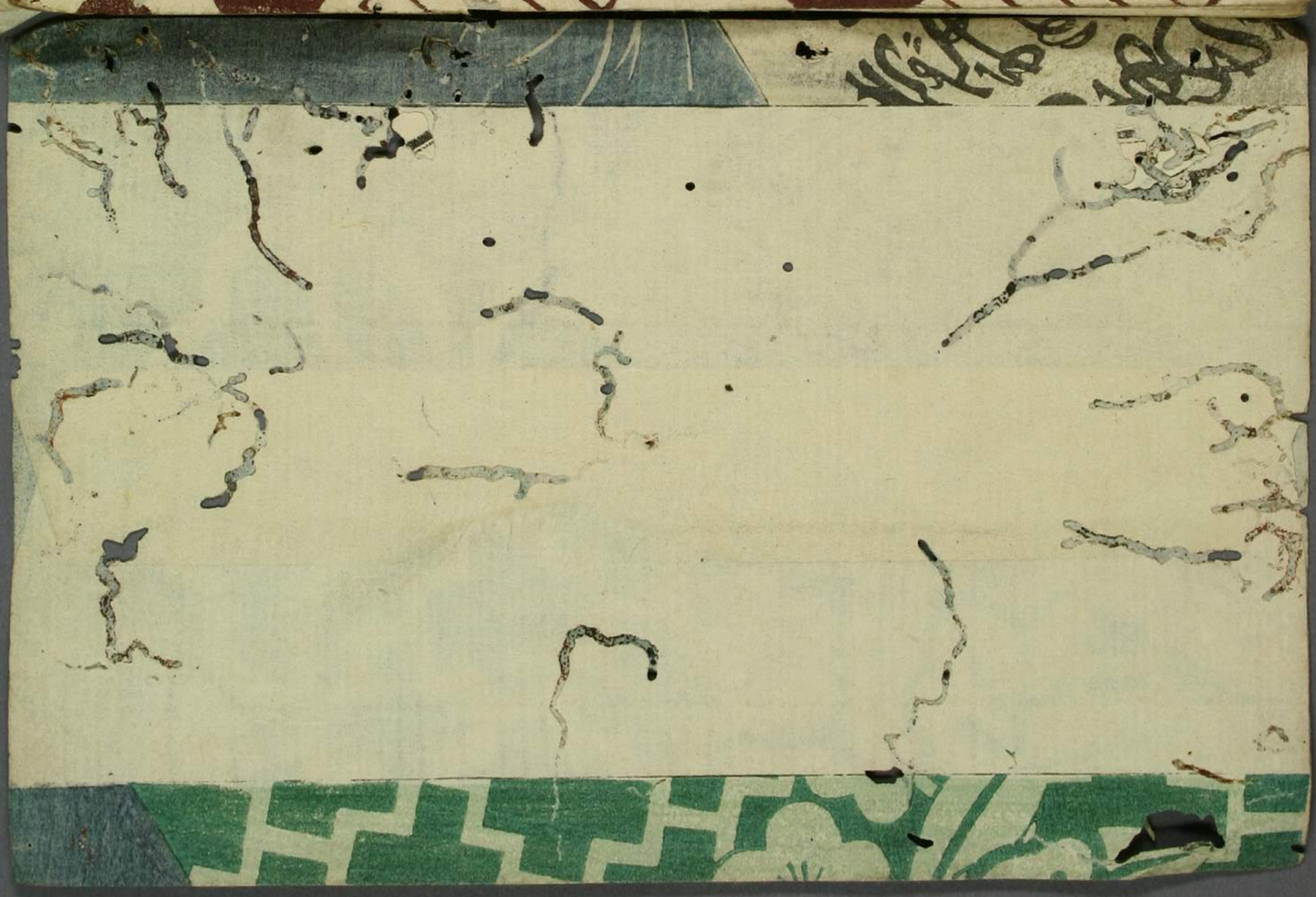
[illegible]

當年新板 壽と六郎 [illegible]

東 [illegible] 千代紙 [illegible]

御年 [illegible]

若林堂板



美北野の雪談

時代かがみ